

年 報

(令和5年度実績)

静岡県工業技術研究所

令和7年1月

目 次

1 概 況

(1) 工業技術研究所の沿革	1
(2) 工業技術研究所全体の事業概要	3
(3) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの状況	4
(4) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの組織図	13
(5) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの職員	16
(6) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの決算	20
(7) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの主要購入機器設備	24

2 事業実績

(1) 試験研究、調査及び指導事務	25
ア 研究開発	25
(ア) 研究課題	25
(イ) 外部研究員招へい事業	32
(ウ) 特許等の登録及び出願	35
イ 技術相談等	36
(ア) 技術相談	36
(イ) 依頼試験	38
(ウ) 機器使用等	43
(エ) 研究会の育成	44
(オ) 研修生の受入れ	45
ウ 技術情報提供	46
(ア) 研究報告関係	46
(イ) 研究発表会関係	46
(ウ) 研究所情報等の提供	50
(エ) 研究所の事業広報等	50
(オ) 講習会等	51
(カ) 講師活動	55
(キ) 委員派遣	59
(ク) 産業技術連携推進会議等への派遣	71
(ケ) 学会等への発表、外部発行誌等への投稿及び展示会への出展	76
(2) 令和5年度研究成果一覧	84
ア 工業技術研究所	84
イ 沼津工業技術支援センター	89
ウ 富士工業技術支援センター	91
エ 浜松工業技術支援センター	93

I 事務事業の概要

1 概 況

(1) 工業技術研究所の沿革

明治 39 年	3 月	「静岡県工業試験場（紙業部、漆器部、庶務部）」を静岡市追手町に、「染織部」を浜名郡天神町村馬込（現浜松市）に設置し、同年 11 月に開場
大正 2 年	12 月	「静岡県工業試験場（紙業部、漆器部、庶務部、染色科）」を静岡市水落町に移転
大正 4 年	9 月	「染織部」を「静岡県工業試験場浜松分場（染織部、図案部、庶務部）」に改称
大正 7 年		「静岡県工業試験場浜松分場」を浜松市北寺島町に移転
大正 8 年	12 月	「静岡県工業試験場」を安倍郡豊田村南安東（後瓦場町、現静岡市葵区太田町）に移転
大正 9 年	2 月	「静岡県工業試験場」を「静岡県静岡工業試験場」に、「静岡県工業試験場浜松分場」を「静岡県浜松工業試験場」に改称
昭和 12 年	11 月	「製紙部」を廃止、「静岡県製紙工業試験場」を富士郡今泉村（現富士市今泉）に設置
昭和 13 年		「静岡県工業試験場島田分場」を志太郡島田町に設置
昭和 27 年	4 月	「静岡県浜松工業試験場」を「静岡県浜松繊維工業試験場」に、「静岡県製紙工業試験場」を「静岡県紙業指導所」に改称
昭和 28 年	1 月	「静岡県静岡工業試験場」を静岡市安倍川町（現葵区駒形通 5 丁目）に移転
昭和 28 年		「静岡県工業試験場島田分場」を廃止
昭和 32 年	4 月	「静岡県紙業指導所」を「静岡県製紙工業試験場」に改称
昭和 36 年	4 月	「静岡県静岡工業試験場」を「静岡県工業試験場」に改称
昭和 36 年	6 月	「静岡県工業試験場浜松分場」を浜松市小池町に設置
昭和 38 年	1 月	「静岡県工業試験場浜松分場」を「静岡県機械技術指導所」と改称
昭和 38 年	12 月	「静岡県製紙工業試験場」を吉原市伝法（現富士市永田北町）に移転
昭和 42 年	6 月	「静岡県浜松繊維工業試験場福田技術指導所」を磐田郡福田町（現磐田市大原）に開所
昭和 57 年	12 月	「静岡県工業試験場」を現在地（静岡市葵区牧ヶ谷）に移転
昭和 59 年	4 月	「静岡県工業試験場」を「静岡県工業技術センター」に改称
平成 2 年	4 月	「静岡県工業技術センター」を「静岡県静岡工業技術センター」に改称、「沼津工業技術センター」を現在地（沼津市大岡）に開設
平成 3 年	4 月	「静岡県製紙工業試験場」を現在地（富士市大淵）に移転し、機械・電子部門を加え、「静岡県富士工業技術センター」に改称、「静岡県浜松繊維工業試験場」と「静岡県機械技術指導所」を統合し、光・電子部門を加え、「静岡県浜松工業技術センター」として浜松市北区（現浜名区）新都田 1 丁目に移転、開設

平成 4 年		「静岡工業技術センター」に開放棟が完成
平成 12 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「健康食品プロジェクトスタッフ」を設置
平成 13 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「ユニバーサルデザインプロジェクトスタッフ」を設置
平成 14 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「マイクロステージプロジェクトスタッフ」を設置
平成 14 年		都市エリア産学官連携促進事業（一般型）開始
平成 15 年	4 月	健康食品プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 15 年		連携大学院制度開始
平成 16 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「音響材料プロジェクトスタッフ」を設置、ユニバーサルデザインプロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 17 年	4 月	マイクロステージプロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 17 年		都市エリア産学官連携促進事業（発展型）開始
平成 18 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「人間住環境プロジェクトスタッフ」、「おい計測プロジェクトスタッフ」を設置
平成 19 年	4 月	「沼津・富士・静岡・浜松工業技術センター」を統合し、「静岡県工業技術研究所」とし、「沼津・富士・浜松工業技術センター」を「工業技術支援センター」と名称変更、浜松工業技術支援センターにレーザー計測制御プロジェクトスタッフを設置
平成 20 年	4 月	「静岡県工業技術研究所」に「えん下改善プロジェクトスタッフ」を設置
平成 21 年	4 月	「富士工業技術支援センター」に「高度コーティングプロジェクトスタッフ」を設置、人間住環境プロジェクト、おい計測プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 22 年	4 月	「沼津工業技術支援センター」に「微生物抗体開発プロジェクトスタッフ」を設置、レーザー計測制御プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 23 年	4 月	「静岡県工業技術研究所」に「バイオマス循環プロジェクトスタッフ」を設置)、えん下改善プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 23 年	9 月	文部科学省から科研費応募資格を有する研究機関としての指定を受ける
平成 24 年	4 月	高度コーティングプロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 25 年	4 月	微生物抗体開発プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 26 年	3 月	「ものづくり産業支援窓口」を開設
平成 26 年	4 月	バイオマス循環プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 28 年	9 月	「静岡県デザイン相談窓口」を開設
平成 29 年	4 月	「富士工業技術支援センター」製紙科を製紙・C N F 科に改称
平成 30 年	4 月	「静岡県工業技術研究所」、「浜松工業技術支援センター」の機械科・電子

科をそれぞれ機械電子科として統合、「富士工業技術支援センター」の製紙・C N F科を製紙科、C N F科に改編、「静岡県工業技術研究所」の環境科を環境エネルギー科に改称

平成30年10月	「浜松工業技術支援センター」に「車載機器用E M C試験施設」が完成
令和元年	「富士工業技術支援センター」に「ふじのくにC N F研究開発センター」、「静岡大学C N Fサテライトフィス」、「C N Fラボ（3室）」を開設
令和元年11月	「静岡県工業技術研究所」に「I o T推進ラボ」を開設
令和2年	遠隔技術相談システムを整備
令和3年11月	「I o T推進ラボ」のサテライトラボを「浜松工業技術支援センター」、「沼津工業技術支援センター」に開設
令和4年6月	「富士工業技術支援センター」に「富士市C N F連携拠点」を設置
令和5年1月	「デジタルものづくり相談窓口」を開設
令和5年9月	「浜松工業技術支援センター」に「デジタルものづくりセンター」を開設

（2）工業技術研究所全体の事業概要

地域産業に最も近い技術支援機関として、研究開発、依頼試験・設備使用、技術相談・人材育成、技術情報の提供、産学官連携の促進や周辺地域の公設試験研究機関との連携強化等を通じて、ものづくりを行う県内中小企業の技術開発や課題解決を支援している。

特に、地域に根ざした産業や県の産業振興施策である先端産業育成プロジェクトをはじめとする集積を目指す産業分野の技術（光・照明・音響、製紙、食品・バイオテクノロジー、環境エネルギー、生活製品）、工業全般の基礎となる技術（材料、機械・電子、情報通信）において、地域産業の振興、新たな産業の創出などの基礎となる技術力の向上を支援している。

近年は、急速な人口減少による人手不足の顕在化や車の電動化・自動運転などの著しい技術革新への対応など、中小企業を取り巻く環境は大きく変化しており、企業ニーズに対応した支援を推進するため、生産性向上を目的としたI o Tに関する研究支援、電気自動車を始めとする次世代自動車に関する研究支援、新たな素材として期待されるセルロースナノファイバー（C N F）に関する研究支援、ものづくりをデジタルデータに基づいて一貫して行うデジタルものづくりに関する研究支援について、工業技術研究所の各機関が連携した取組を進めている。

県内産業界を一体的に技術支援できる組織体制とするため、平成19年度には沼津・富士・静岡・浜松工業技術センターを統合し、工業技術研究所（静岡市）とし、その下に沼津・富士・浜松工業技術支援センターを配置した。

平成24年9月、工業技術研究所全体で、文部科学省から科研費応募資格を有する研究機関としての指定を受け、企業支援のための技術力向上に努めている。平成26年3月、これまでの窓口相談を拡充し、研究所及び各工業技術支援センターにから海外展開支援を含めた「ものづくり産業支援窓口」を開設したほか、商工会議所・商工会等との連携により、研究員が直接企業に出向く出張相談の強化を行った。平成28年10月、「デザイン相談窓口」を開設し、デザインに関する相談やデザイナーとのマッチング等の支援を強化した。

さらに、令和5年1月、「デジタルものづくり相談窓口」を開設し、県内企業の製品開発等の

支援に取り組んでいる。

これらにより、企業が取り組む研究開発、製品設計・生産、品質管理における技術課題の解決のための支援が強化された。

○ 主要事業

ア 研究開発

新成長戦略研究、経常研究、共同研究、受託研究を行い、地域産業の技術基盤の強化や先端技術の開発による産業支援を行う。

イ 依頼試験・設備使用

地域企業の新製品開発や性能評価のため、依頼試験や試験機器・施設等を開放し、技術支援を行う。

ウ 技術相談・人材育成

中小企業の技術相談や各種研修会・講習会を開催し、地域産業の技術力向上に努める。

エ 技術情報の提供

研究所のウェブサイトやメールマガジン、センターニュース、また各種技術講演会を通じて、地域の中小企業を中心に、製造技術や製品開発に必要な技術情報を提供する。

オ 産学官連携の促進

静岡県工業技術研究所産学官連携推進コーディネータを配置し、地域企業の技術情報の共有化や研究開発の支援などを通じた地域企業、大学、支援機関との連携強化を図っている。

他県の公設試験研究機関との連携を密にするため、関東経済産業局管内の首都圏公設試験研究機関連携体（首都圏テクノナレッジ・フリーウェイ（TKF））や、中部経済産業局管内の中部イノベーションに参画し、情報交換や広域連携による域内企業の支援強化を進めている。また、関東甲信越静地域の公設試が連携して中小企業の海外展開を支援する組織（広域首都圏輸出製品技術支援センター（MTEP））に参加し、域内企業の海外進出を技術面から支援している。

カ 先端産業創出プロジェクト等の推進

先端産業創出プロジェクト（ファルマバレープロジェクト、フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト、フォトンバレープロジェクト、次世代自動車プロジェクト、ふじのくにCNFプロジェクト、マリンオープンイノベーションプロジェクトなど）による産業イノベーション拠点の形成事業や中小企業の成長分野への進出を支援する新成長産業戦略的育成事業と相互に連携することにより、新技術・新製品の開発を促進する。

（３）工業技術研究所及び各工業技術支援センターの状況

ア 工業技術研究所（静岡市）

（ア）地域の概要

当研究所が所在する中部地域は、静岡市を中心に江戸時代から発達した漆塗等の技術と豊富な森林資源を活かし、家具、雛具等の伝統工芸産業が集積している。また、焼津市や静岡市清水区を中心に豊富な農水産物を原料とした全国有数の食品加工産業が集積しており、かつお・まぐろ類缶詰、冷凍水産食品等は、日本一の生産量を誇る。さらに大手医薬品製造者の生産拠点や車載光学機器を中心とした化成品産業が集積している。

中部地域は、先端産業創出プロジェクトにおける「フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト」の中心的地域であり、平成20年度から始まった「総合食品学講座」の人材育成事業においては、公益財団法人静岡県産業振興財団や静岡県公立大学法人静岡県立大学と共に参画し、既存産業の高度化や新たな食品関連産業の創出に努めている。

また当所が開発した中小食品製造業者向け食品廃棄物のエネルギー利用を目的とした小型メタン発酵プラントについては、その事業化を目指した「静岡県小型メタン発酵プラント事業化推進協議会」が、13の食品加工・製造企業やプラントメーカー等により設立され、食品工場等にパイロットプラントを設置し、有効性や採算性について実証試験を実施した。

(イ) 事業の概要

当研究所では、平成19年度に企画調整機能を集約化して企画調整部を設け、研究所と各支援センターが一体となって県内産業界を総合的に支援できるよう、研究所全体の企画調整、機器整備等の計画策定、技術情報の集約・一元的な発信、産学官の連携強化等を行っている。

金属材料科・化学材料科・機械電子科では、県内中小製造業に対し、構造材料・表面加工技術の向上、ものづくり技術の高付加価値化や製品設計の高度化等共通基盤技術を支援しており、企業との共同研究にも積極的に取り組んでいる。

その中で、金属材料科は次世代自動車向け軽量素材の利用促進を目的に、半熔融成形や樹脂へのめっきに関する技術開発に取り組み、化学材料科では、脱炭素化の取り組みとして、樹脂と植物性素材C N Fの複合材料の開発に取り組んでいる。

機械電子科では、新成長戦略研究「設備、モノ、ヒトの統合的データ分析による生産性の効率化」をテーマに企業の生産性向上に向けた支援に取り組むとともに、企業の最新のIoT関連機器を展示する「静岡県IoT推進ラボ」を所内に開設し、講習会や実証実験などを通し、企業にIoTによる生産工程の見える化などを体験する機会を提供している。

照明音響科では、県中部地域に集積する車載光学機器産業を中心とした照明関連産業の振興を図るため、シミュレーションや精密形状測定、配光測定などを活用し、設計、生産、評価と一貫した支援に取り組んでいる。令和3年度から実施していた新成長戦略研究「人とコミュニケーションを図る次世代車載装置用樹脂レンズの開発」が最終年度を迎え、自動運転に必要なコミュニケーションライティングシステム用樹脂レンズの金型製造を可能とするための、超精密な加工技術の開発に成功した。車載光学機器産業を中心とした照明関連産業の振興を目的に、平成30年度に照明音響科を設置した。「配光測定装置」は、一般照明用と自動車のヘッドランプ用の2種類に加えて微小光源用を整備しており、全国的にもこれらの設備を揃えている公設試験研究機関は当所だけであり、新たな製品開発を支援している。

食品科は、県中部地域に集積している食品産業の振興を図るため、地域資源（お茶、海藻等）や未利用食材の利活用に関する研究や人材育成を行い、「フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト」推進の一翼を担っている。令和元年度からは、化粧品・化成品の支援を強化し、県内中小企業の新製品開発の支援に取り組んでいる。また、令和2年度から始動したマリンオープンイノベーションプロジェクトのもと、MaOI機構や県試験研究機関と連携し、海洋由来微生物を活用した食品開発等により、引き続き、駿河湾由来乳酸菌を用いた「静岡チーズ」やハバネロソースを商品化したマリンバイオ産業創出支援に取り組んでいる。

環境エネルギー科では、排水処理技術やバイオマスを利用したエネルギー回収技術等の研究や支援業務を行っている。平成26～28年度に実施した新成長戦略研究「分散型エネルギー社会に貢献する小型メタン発酵プラントの開発」で試作した小型プラントについて、県内食品・製造企業における実証試験を実施し、普及に向けてデータを情報公開している。また、県単独研究「好気性グラニュールを利用した省スペース型高濃度窒素排水処理装置の開発」では、高負荷排水にも対応したコンパクトな新たな処理装置の開発を行っている。

ユニバーサルデザイン科では、ユニバーサルデザイン製品・福祉用具・医療機器などの県内関連産業を支援している。人口減少・少子・高齢社会が求める新たな価値の発見と魅力の創造に向けて、人間特性評価・UX・UIなどの研究に取り組んでいる。またデザインに関する相談やデザイナーとのマッチング等の支援にも取り組んでいる。

工芸科では、家具・住宅など県内の生活関連産業を支援している。県産材の需要拡大につながる木製品の付加価値向上や、快適な生活空間の創造に向けて有害物質の評価、木製家具等の強度・耐久性試験などの研究に取り組んでいる。

イ 沼津工業技術支援センター(沼津市)

(ア) 地域の概要

当センターが所在する県東部地域は、戦前海軍工廠に納める精密ネジを作る企業があった。

戦後多くのネジ製造企業が独立し、現在では自動車関連の部品製造企業となっている。芝浦機械(株)や(株)リコーといった大企業が存在することから、精密加工を行う企業、プリンター部品を製造する企業も多い。

また、医薬品・医療用機器製造業も集積しており、地域の企業に対する医療用機器分野への参入を支援する取組も行われている。

県では、平成14年9月に開院した県立静岡がんセンターを核とした医療産業から健康産業まで広がる富士山麓先端健康産業集積(ファルマバレー)プロジェクトを推進しており、平成15年4月に、その中核的な支援機関であるファルマバレーセンターが開設された。当初より、当センターでは、年間7回程度開催するネットワーク会議にキーメンバーとして参加している。なお、令和3年度からは、コロナ禍を機にオンライン会議も取り入れて開催されている。

また、平成21年度からは医用機器等開発テーマ実現化会議へ委員を派遣し、この会議を経て令和元年度は「富士山麓から医療機器開発へ」ふじのくに医療機器産業活性化推進事業支援コーディネータとして活動した。

なお、ファルマバレープロジェクトは、①平成23年12月に東部地域12市町が内閣府より地域活性化総合特区「ふじのくに先端医療総合特区」として指定を受け、平成25年7月には文部科学省等補助事業「地域イノベーション戦略支援プログラム(国際競争力強化地域)」に採択、②平成28年9月、県立静岡がんセンター至近に医療健康産業研究開発センターの開設、③平成29年8月に(一財)ふじのくに医療城下町推進機構として設立された財団の公益財団法人化(平成31年4月)の動きを受け、ますます活動は加速化している。あわせて、令和元年12月に締結した本県と山梨県との医療健康産業政策の連携協定により、積極的な情報交換を進めている。

(イ) 事業の概要

当センターは、県東部地域の中小企業の技術力の強化・向上の支援、地域産業界全体の技術振興を目的として設置された試験研究機関である。バイオ科及び機械電子科の2科を設け、酵母等の発酵技術、ものづくりの基盤となる機械・電子技術により地域産業を支援するとともに、医療福祉分野等の試験研究や技術支援を通じてファルマバレープロジェクト等の東部地域の新産業育成に貢献している。

バイオ科は、工業技術研究所で唯一のバイオテクノロジー担当部門として、東部地域にとどまらず県下全域を対象としている。平成27年度から平成29年度まで県の5研究所と関係業界が協働して行った新成長戦略研究「食の都しずおかの微生物を用いた新しい発酵食品ビジネスの創出」でしずおか有用微生物ライブラリーを構築した。本研究のなかで、発泡性日本酒やオリジナルビールの開発といった新しい取り組みに成功し、このライブラリーを活かした新たな発酵ビジネスの創出に貢献した。これにより、本県の地域資源等から得た有用微生物によって構築されたライブラリーの微生物株の県内企業への分譲が進んでいる。さらに、令和2年度から令和4年度まで水産・海洋技術研究所が中核研究機関となった新成長戦略研究「マリンバイオ産業を振興するための海洋由来微生物を活用した新たな食品開発」において、県内クラフトビールメーカーとの共同研究により、海洋由来乳酸菌と酵母を用いたサワービールの商品化を果たした。本研究で得られた海洋由来微生物株については、一般財団法人マリンオープンイノベーション機構（MaAOI機構）がライブラリ化し、企業への供給体制を構築しており、当センターは、MaAOI機構と連携し県内企業の事業化支援に取り組んでいる。

機械電子科では、平成28年度から平成30年度にかけて、戦略的基盤技術高度化支援事業（経済産業省）（現 成長型中小企業等研究開発支援事業）として「骨端用プレートの高品質・低コスト成形加工技術の開発」を進めた。これに加え、平成30年度から令和2年度にかけて、新成長戦略研究「次世代型インプラントの型鍛造成形を可能にする設計支援技術の開発」を実施し、整形外科用インプラントの型鍛造成形を実現させる上で必要不可欠な、金型や成形条件探索等に費やす開発費を削減させることが出来る独自の設計支援技術を開発した。これをもとに関連企業からの技術相談や受託研究の相談も増加しており、ファルマバレープロジェクトに関連した課題に取り組んでいる。また、令和3年11月にはセンター内に「静岡県IoT推進ラボ サテライト沼津」を開設し、企業のIoT導入の支援を行っている。

センター業務の実施に当たっては、中小企業のニーズを把握することを第一に、企業や商工団体の訪問、企業との意見交換の場の確保等、地元の声の把握に鋭意努めながら進めている。

ウ 富士工業技術支援センター（富士市）

(ア) 地域の概要

当センターが所在する富土地域（富士市、富士宮市）は、大消費地である首都圏に近く、富士山麓の豊富な水資源を基に製紙産業が栄え、これを中核とする機械産業が発達し、世界に類を見ない製紙関連産業の技術集積地を形成している。さらに昨今の電子技術を応用した家電、輸送用機械工業などの進出により一大工業地帯を形成し、加えて、富士山麓の清涼な環境の基

に特異な精密工業や医療機器・医薬品関連産業の進出による先端産業地帯としても発展している。

しかし、最近の経済のグローバル化に伴い、地域の企業も他社との統合・合併で生き残りを図るなど大きな構造変化が進んでいる。例えば、製紙関連では、富士地域に集中する中小のトイレットペーパーなどを製造する家庭紙製造業は、大手製紙メーカーがこの分野にも参入してきており、地域全体の生産量は横ばいから微増であるが、生産能力が過剰になりつつあり競争が厳しくなってきた。また、印刷用紙等では、IT技術の伸展などによるペーパーレス化により、生産量が大きく減少しているため、大手製紙メーカーの大幅な事業の見直し・集約により、当地での事業が縮小しており、製紙および関連産業への影響が懸念されている。中小印刷用紙メーカーでは印刷用紙以外の製品製造に取り組むなどの動きが見られる。

一方、製紙関連以外の製造業では、富士宮市を中心とする医療機器産業が比較的順調な伸びを保っているが、富士地域の輸送用機械や電気機械及び化学工業関連などは、先行き不透明で、厳しい状況にある。その中で、最近では樹脂成形、化成品、食品など様々な分野で新材料として注目されているセルロースナノファイバー（CNF）を利用した新製品開発が進んでおり、富士市がプラットフォームを組織してCNFの研究開発や製品化の支援を進めている。脱炭素社会への移行とデジタルシフトが加速しており、多くの企業がCNF活用やAI・IoTの活用に関心を寄せている。

（イ）事業の概要

当センターは、企業による新成長分野への進出や新規事業分野の開拓にかかる研究開発の他、関連支援機関と連携して、入口（ニーズ、市場性の調査）から製品開発、出口（販売）までの一貫支援に努めている。また、地域企業の既存技術の高度化、高付加価値新商品の開発を、主に技術面から支援している。

製紙科では、古紙を利用した再生紙製造に関する技術開発に積極的に取り組んでいる。古紙原料不足や古紙価格の高騰などから付加価値の高い紙や特殊紙の開発に組み始めた企業も増えているため、紙リサイクル技術の高度化、紙質・製品評価技術の確立、機能性付与技術の開発に重点を置いている。これまでの古紙利用に関する研究では、トイレットペーパーがほぐれにくくなっている要因や、かさが要求される印刷用紙などでより低密度化できる処方を探り、工場の実状に併せた改善策を提案し、品質改善に結び付けた。また、古紙原料不足に対応した課題として廃棄衣料を製紙原料として活用する技術開発にも取り組んでおり、令和5年度には遠州織物業界から排出される廃棄衣類を解繊、パルプと混合して富士市内の製紙工場で印刷用紙を製造するというリサイクルモデルの実証を行った。その他古紙の品質低下が原因と考えられる様々な技術相談が寄せられていることから、今後も古紙利用技術の開発は重点的に取り組んでいく。

CNF科は県内企業によるCNF関連産業への参入を支援する中核的役割を担うとともに、次世代の新素材として注目されているCNFの技術窓口として、ふじのくにCNFプロジェクト推進事業を遂行している。令和元年度からのCNFの応用分野として期待される樹脂を対象とした新成長戦略研究「次世代自動車軽量化のためのCNF複合材の開発」では、安価で性能の良いCNFの製造方法と樹脂中で分散しやすい混練、成形方法の開発を行った。令和4年度

は、新成長戦略研究政策課題指定枠「プラスチック資源循環実現に向けたC N F 複合樹脂リサイクル性の評価」を実施し、脱炭素・資源循環社会実現に向けた自動車部材の軽量化素材として、リサイクルが困難なガラス繊維等を使用した樹脂の代替とするため、C N F 複合樹脂のリサイクル性を検証した。また、産学官連携体制強化のため、静岡大学C N F サテライトオフィス及び企業と共同研究を行うC N F ラボで構成される「ふじのくにC N F 研究開発センター」を運営し、事業化や製品化を推進している。さらに富士市と連携して当センター内に「富士市C N F 連携拠点」を設置し、C N F 分野の権威である東京大学磯貝特別教授が定期的に来所してC N F 利用製品開発の技術相談、指導を行っている。

機械電子科は、当地域における製造品出荷額の上位を占めている機械、電気・電子産業の支援を目的に設置され、通常の業務に加え、センター協議会活動を通して中小企業の技術力の向上に寄与している。平成29年度からは次世代自動車等での利用増加が見込まれる軽量、高強度の部品の製造技術確立と実用化を目指す新成長戦略研究「異種材料接合のための新型プラズマ照射装置の開発」に取り組み、開発した試作品による実用化のための技術開発を終え、企業に利用開放している。また、畜産技術研究所と協力してA I を活用した先進的な畜産技術の開発に取り組んでいるほかに、令和6年度からは製紙工場の製造現場にA I を活用して生産性を向上させるための技術開発に取り組んでいる。

今後も産業支援機関や大学と連携して地域企業の新たな成長分野への参入を支援するとともに、センターの持つ技術力を活かして現場ニーズに対応した技術支援を推進していく。

エ 浜松工業技術支援センター（浜松市）

（ア）地域の概要

当センターが所在する西部地域は、トヨタ、ホンダ、スズキ、ヤマハ発動機などの世界的輸送機械メーカー発祥の地であり、自動車や二輪車及び船外機関連企業が集積している。また、ヤマハ、河合楽器製作所、ローランドなどの世界的楽器メーカー、浜松ホトニクスなどの光関連メーカー及び電気機器関連企業等が立地している。また、古くから綿織物の国内有数の産地として盛況を極めてきた。

西部地域は、本県経済を主導するリーディング産業を育成する先端産業創出プロジェクトのなかで、フォトンバレープロジェクトの中心となっている。産学官金の連携による地域企業の新製品開発や新たな市場への進出を支援するとともに、「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」や「光産業創成大学院大学」が実施する人材育成などを支援するなど、光・電子技術産業の集積化を推進している。

また、成長産業である次世代自動車、医療機器、航空機産業分野などへの地域企業の参入を促進し、海外成長力の取り込みなどによる地域産業の活性化を図っている。次世代自動車産業については、県内企業で参入を目指した取組が活発化しており、当センターでも関連する試験機器を整備するなど、支援体制の強化に努めている。また、部品部材の開発を支援するため、電気自動車（日産リーフ）の2010年型と2017年型の分解展示を令和元年1月より開始した。

さらに、地域に集積する技術力と地元の素材を結び付けた高付加価値の製品づくりとブラ

ンド力の強化、県内外への情報発信や販路開拓を支援するなど、繊維をはじめとする地場産業の振興を図っている。

(イ) 事業の概要

当センターでは、地域企業の要望に応じた製品試験、不良品の原因調査などの相談に応じるとともに、企業と共同で新製品の研究開発に取り組んでいる。

このため、県内中小企業のものづくりをデジタルデータに基づいて企画・設計から成型加工、測定・評価まで一貫して支援する「デジタルものづくりセンター」を令和5年度に開設した。

CAE等の試し使いができる「シミュレーショントライアルルーム」、サンプル等の紹介、企業連携による打合せができる「コワーキング・展示スペース」、CAE等の各種ソフトウェアに関するセミナー、ワークショップを行う「セミナールーム」を新たに設け、既存・新設機器を活用し、製品開発課程における中小企業のデジタル技術のボトムアップを推進する。

光科では、光半導体レーザーや超短パルスレーザーを高度に利用する技術や透過光計測により応力に起因する複屈折率分布を可視化する装置の開発を行い、ものづくりの品質検査等、新たな応用分野の研究開発を進めている。また、平成29年度より参画してきた内閣府革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）の中で開発した新型レーザーの試用プラットフォームを、用途開発に利用していただくよう無料開放している。令和3年度から実施した次世代自動車への搭載を目的とした「コミュニケーションライティングシステム」のためのレンズ開発を行う新成長戦略研究課題（リーダーは本所）では、光学素子の設計・評価及び樹脂成形用金型転写技術の検討を担当し、その成果の社会実装に取り組んでいる。

また、光産業創成大学院大学による中核人材育成講座に、派遣講師として協力するなど、レーザー応用技術に携わる人材の育成を支援している。

機械電子科では、精密測定や品質工学に関する技術相談を通じ、モノづくりを支援している他、機械技術に関連する研究会の活動をサポートしている。また、アルミニウム部品の熱変形やウルトラハイテン材のひずみ等を三次元的に計測、評価する技術の開発を進め、地域企業の製品設計、開発力の強化に取り組んでいる。

令和3年11月にはセンター内に「静岡県IoT推進ラボ サテライト浜松」を開設し、企業のIoT導入の事例を紹介するとともに、令和5年度は熱構造解析用CAE装置や形状最適化ソフトウェアを導入するとともに、令和6年度には3Dスキャナを導入して、前述のデジタルものづくりを支援する。

一方、電磁波測定、電磁波環境計測関連機器及び耐振耐候試験機等、所有機器を用いて製品の信頼性向上を図り、安全で安心できる電子機器の開発や技術向上を支援している。また、EMC試験における測定の不確かさの算出・管理による測定値の信頼性及び測定技術の向上に向けた研究を通じ、事業者の製品開発を支援している。なお、電子制御化が進む自動車関連産業の需要に対応するための車載機器用EMC試験施設を平成30年度に整備し、県内事業者等による次世代自動車開発関連分野への参入を支援している。

材料科では、次世代自動車に用いられる軽量難加工材に関わる加工・評価やめっき技術を応用した表面処理技術の開発に取り組んでいる。また解析技術の向上・体系化を図り、材料

の成分分析、構造解析、強度試験、破損・欠陥解析などの各種試験や技術相談に迅速かつ的確に対応することにより、企業の新製品開発・技術開発を支援している。

加えて新たな造形方法として注目されている金属3Dプリンタを令和5年度に導入した。従来の成形、加工技術では作成が困難な形状の部品を造形できるため、デジタルものづくりによる試作やより付加価値の高い製品の開発への支援を目指している。

繊維高分子材料科では、令和2年度より県の新成長戦略研究として、次世代自動車などへの採用が期待される軽量高強度材料「炭素繊維強化複合材（CFRP）」の、大量生産に対応した高効率成形技術の確立を目指している。また、当センターが保有する織物サンプルデータベース、電子ジャカード織機などを活用して、コーデュロイやゆかたなどの新製品開発を行う地域企業の技術支援を行っている。

（４）工業技術研究所及び各工業技術支援センターの施設の概要

ア 工業技術研究所（静岡市）

（ア）敷地面積	23,157 m ²	
（イ）建築面積	7,659 m ²	
（ウ）延床面積	13,091 m ²	
○管理棟	鉄筋コンクリート4階建	2,250 m ² （管理部門）
○研究棟	鉄筋コンクリート4階建	4,130 m ² （研究部門）
○研修棟	鉄筋コンクリート平屋建	270 m ² （講習・研修施設）
○実験棟	鉄骨平屋建	2,719 m ² （実験施設）
○開放棟	鉄筋コンクリート3階建	1,680 m ² （開放試験・共同研究施設等）
○資料館	鉄筋コンクリート2階建	460 m ²
○付属棟		1,582 m ² （設備棟・薬品庫等）

イ 沼津工業技術支援センター（沼津市）

（ア）敷地面積	19,958 m ²	
（イ）建築面積	3,892 m ²	
（ウ）延床面積	6,219 m ²	
○管理・研究・開放棟	鉄筋コンクリート3階建	4,384 m ² （管理・研究部門、開放試験）
○実験棟	鉄筋コンクリート平屋建	648 m ² （実験施設）
○付属棟		305 m ² （廃水处理施設等）
○インキュベーションセンター	鉄骨平屋建	882 m ²

ウ 富士工業技術支援センター（富士市）

（ア）敷地面積	20,075 m ²	
（イ）建築面積	4,433 m ²	
（ウ）延床面積	8,801 m ²	
○管理・研究・開放棟	鉄筋コンクリート3階建	5,346 m ² （管理・研究部門、開放試験）
○実験棟	鉄筋コンクリート3階建	2,414 m ² （実験施設）
○付属施設		165 m ² （車庫・駐輪場等）
○インキュベーションセンター	鉄骨平屋建	876 m ²

エ 浜松工業技術支援センター（浜松市）

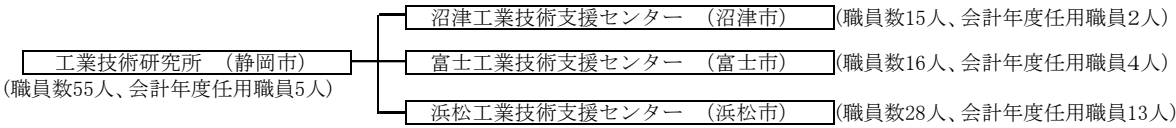
（ア）敷地面積	28,238 m ²
（イ）建築面積	5,792 m ²

(ウ) 延床面積 11, 142 m²

○管理研究棟	鉄筋コンクリート4階建	5, 023 m ²	(管理・研究部門)
○開放棟	鉄筋コンクリート2階建	1, 276 m ²	(開放試験・共同研究・講習研修施設)
○実験棟	鉄筋コンクリート2階建	3, 309 m ²	(実験施設)
○附属棟		128 m ²	(排水処理施設・薬品庫等)
○車載機器EMCテストサイト	鉄骨平屋建	531 m ²	(実験施設)
○インキュベートセンター	鉄骨平屋建	875 m ²	

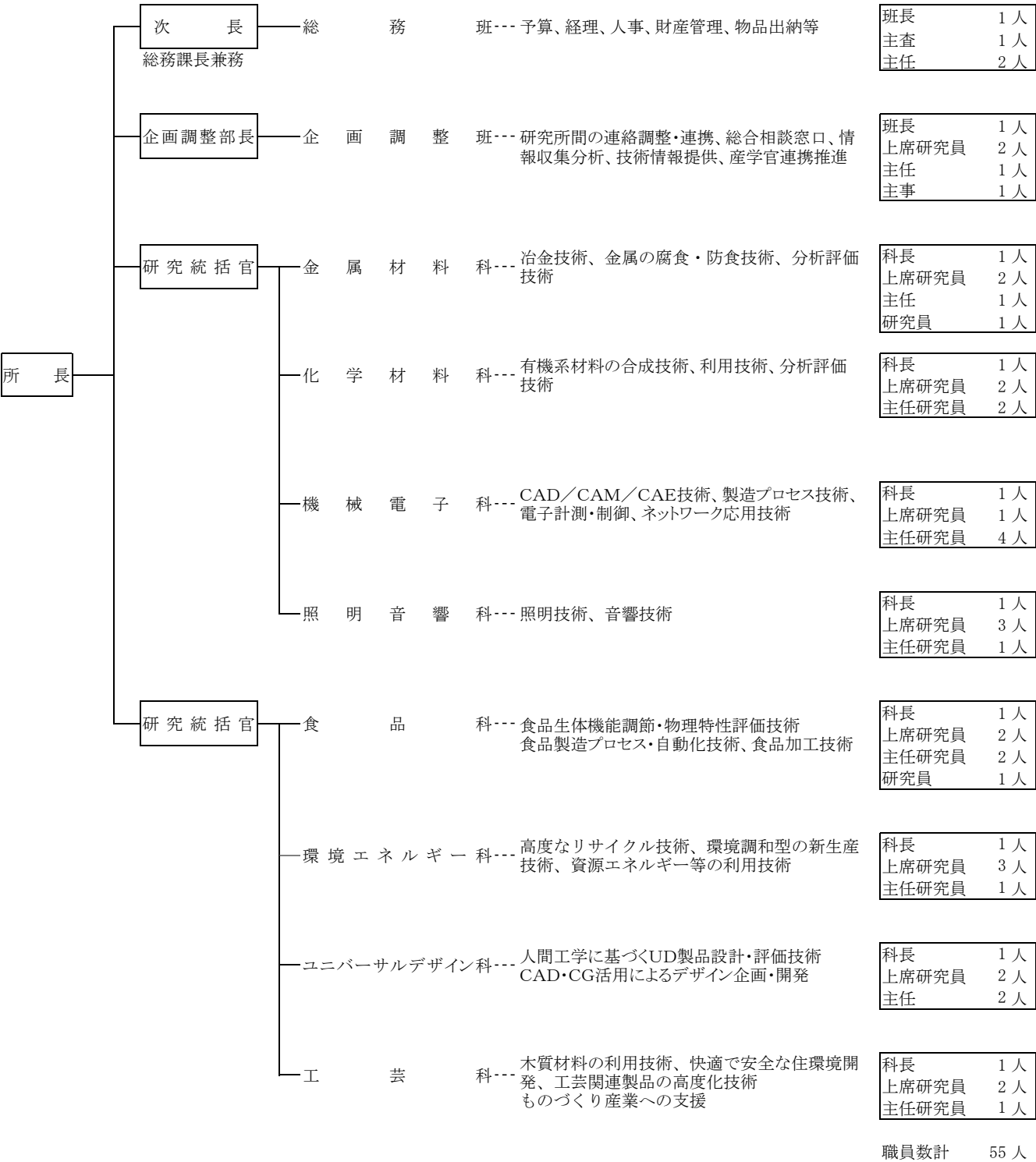
(4) 組織図

令和 5 年 4 月 1 日現在の工業技術研究所の組織及び業務分担は、次のとおりである。
職員総数は事務職員 9 人、技術職員94人、再任用職員11人、会計年度任用職員24人の計138人である。



ア 工業技術研究所（静岡市）

職員数は事務職員 4 人、技術職員47人、再任用職員 4 人、会計年度任用職員5人の計60人である。

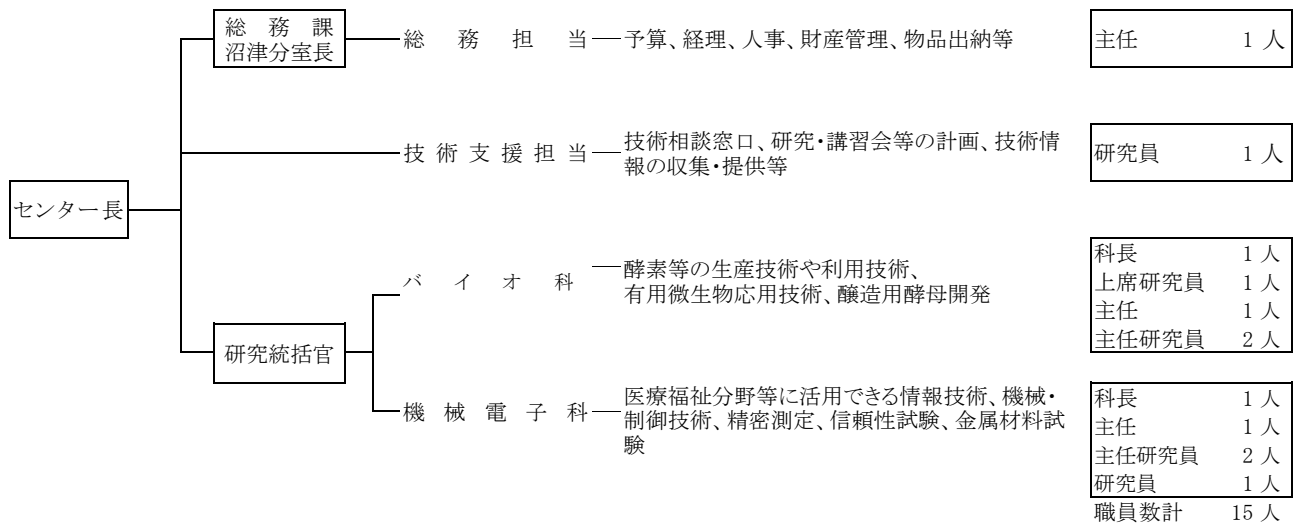


(その他会計年度任用職員等)

職 名	人数
会計年度任用職員	5 人

イ 沼津工業技術支援センター(沼津市)

職員数は事務職員 1 人、技術職員11人、再任用職員 3 人及び会計年度任用職員 2 人の計17人である。

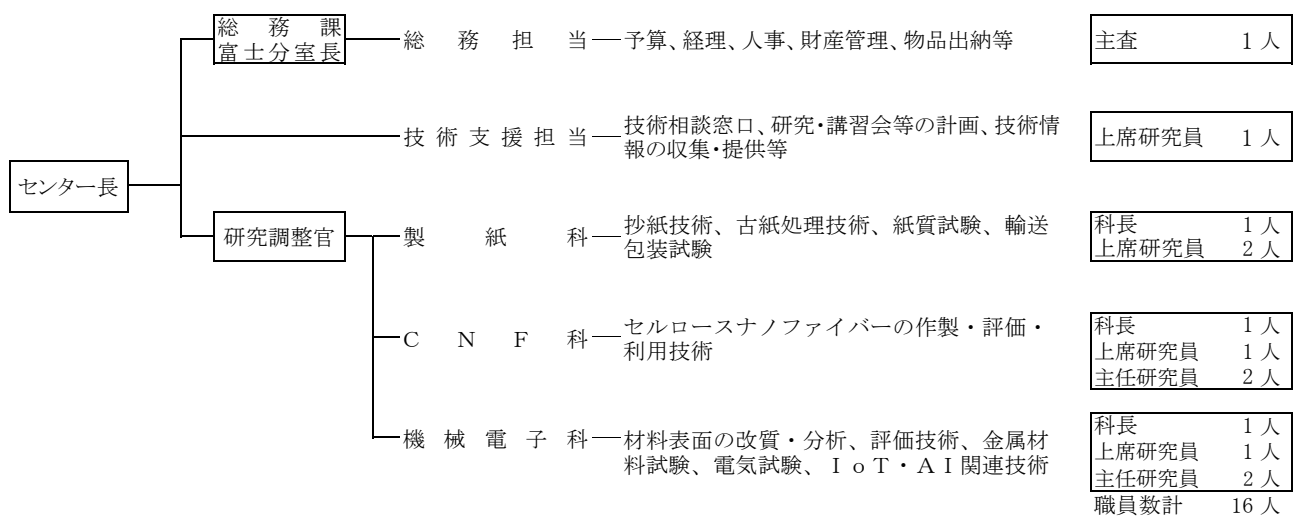


(その他会計年度任用職員等)

職 名	人数
会計年度任用職員	2 人

ウ 富士工業技術支援センター(富士市)

職員数は事務職員 2 人、技術職員14人、会計年度任用職員4人の計20人である。

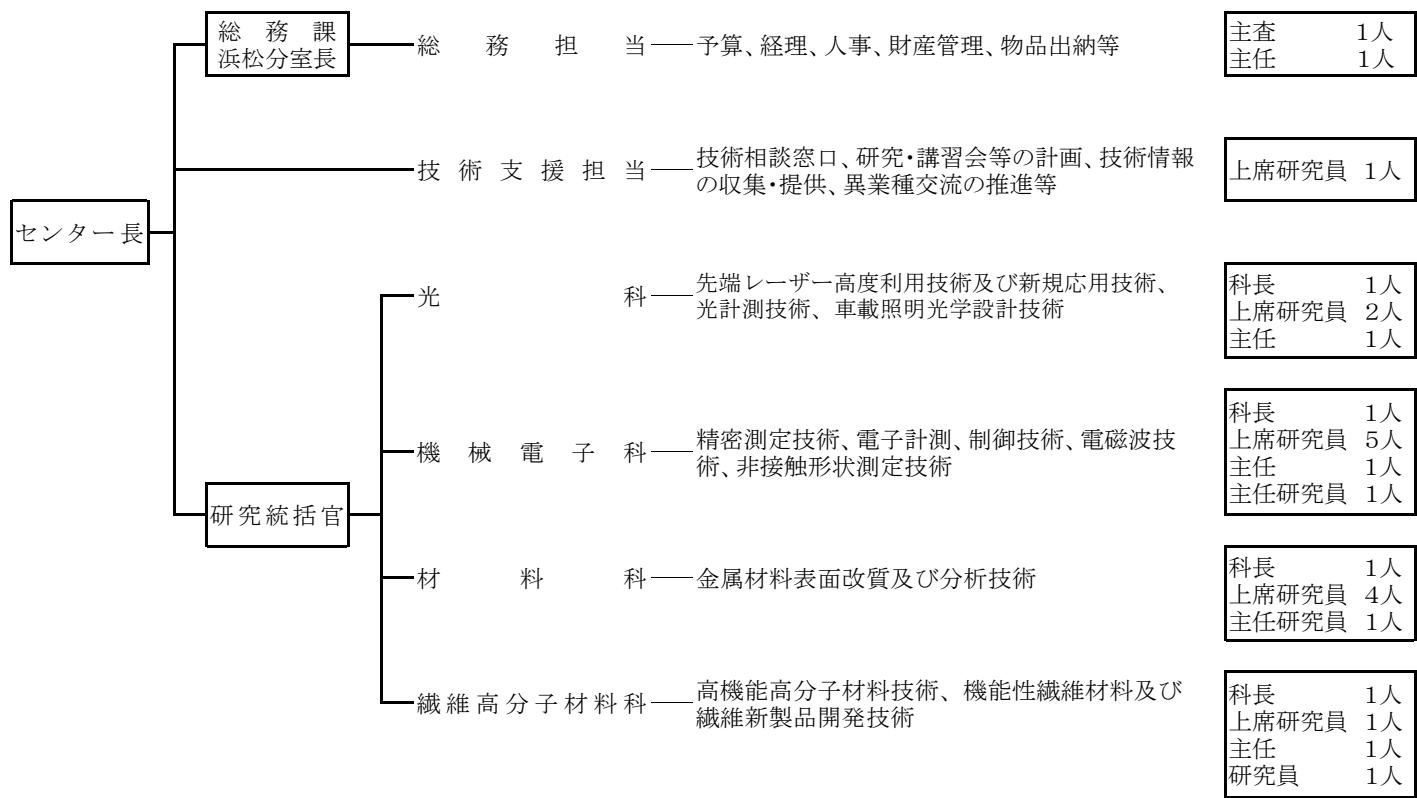


(その他会計年度任用職員等)

職 名	人数
会計年度任用職員	4 人

エ 浜松工業技術支援センター（浜松市）

職員数は事務職員 2 人、技術職員22人、再任用職員 4 人、会計年度任用職員13人の計41人である。



職員数計 28人

（その他会計年度任用職員等）	
職 名	人数
会計年度任用職員	13人

(5) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの職員

ア 工業技術研究所

部課科スタッフ	事務職員	技術職員	会計年度任用職員	部課科スタッフ	事務職員	技術職員	会計年度任用職員
所長		1		化学材料科		5	
次長兼総務課長	1			機械電子科		6	
企画調整部長		1		照明音響科		5	
研究統括官		1		食品科		6	1
研究統括官		1		環境エネルギー科		5	
総務課	3	1		ユニバーサルデザイン科		5	
企画調整部	2	3	3	工芸科		4	1
金属材料科		5		計	6	49	5

職員名簿

組 織		職名	氏 名	組 織	職名	氏 名
所 長			櫻川 智史	照明音響科	科 長	木野 直樹
総務課	次長兼課長	宮本 三生	上席研究員		豊田 敏裕	
	班 長(事)	塩澤 富代	上席研究員		竹居 翼	
	主 査(事)	執行 賀名子	上席研究員		柳原 亘	
	主 任(事)	藪 哲洋	主任研究員		田代 友範	
	主 任(技)	一瀬 将平	研究統括官 油上 保			
企画調整部	部 長	中山 洋	食品科	科 長	大竹 正寿	
	班 長	小松 剛		上席研究員	松野 正幸	
	上席研究員	浅沼 俊倫		上席研究員	山本 佳奈恵	
	上席研究員	志田 英士		主任研究員	長房 秀幸	
	主 任(事)	佐野 芳浩		主任研究員	石橋 佳奈	
	主 事(事)	伊藤 春香		研究員	堀池 隼雄	
	会計年度任用職員 3名			会計年度任用職員 1名		
研究統括官		赤堀 篤	環境 エネルギー科	研究統括官兼科長	本間 信行	
金属材料科	科 長	岩澤 秀		上席研究員	岡本 哲志	
	上席研究員	鈴木 洋光		上席研究員	室伏 敬太	
	上席研究員	田中 宏樹		上席研究員	菊池 圭祐	
	主 任(技)	萱沼 広行		主任研究員	井口 大輔	
	研究員	磯部 佑太	ユニバーサル デザイン科	科 長	長澤 正	
化学材料科	科 長	鷺坂 芳弘		上席研究員	易 強	
	上席研究員	菅野 尚子		上席研究員	及川 貴康	
	主任研究員	結城 茜		主 任(技)	多々良 哲也	
	主任研究員	小泉 雄輔		主 任(技)	深谷 謙一	
	主任研究員	野澤 遼	工芸科	科 長	田村 克浩	
機械電子科	科 長	山下 清光		上席研究員	村松 重緒	
	上席研究員	望月 紀寿		上席研究員	船井 孝	
	主任研究員	鈴木 悠介		主任研究員	前田 研司	
	主任研究員	松下 五樹		会計年度任用職員 2名		
	主任研究員	岩崎 清斗	(事)は事務職員、(技)及びその他は技術職員 (会計年度任用職員を除く)			
	主任研究員	横井 功毅				

イ 沼津工業技術支援センター

課科スタッフ	事務職員	技術職員	会計年度任用職員
センター長		1	
研究統括官		1	
分室長	1		
総務担当	1		1
技術支援担当		1	
バイオ		5	
機械電子		5	1
計	2	13	2

職員名簿

組 織	職 名	氏 名	組 織	職 名	氏 名
センター長		鈴木 宏史	機械電子科	科 長	望月 建治
研究統括官		鬼久保 郁雄		主 任	増田 康利
総務課分室長（事）		山島 茂樹		主任研究員	稲葉 彩乃
総務担当	主 任（事）	杉本 和子		主任研究員	是永 宗祐
	会計年度任用職員	1 名		研究員	木村 光平
技術支援担当	研究員	黒瀬 智英子		会計年度任用職員	1 名
バイオ科	科 長	飯塚 千佳世	(事)は事務職員、その他は技術職員(会計年度任用職員を除く)		
	上席研究員	袴田 雅俊			
	主 任	杉本 芳邦			
	主任研究員	高木 啓詞			
	主任研究員	鈴木 雅博			

ウ 富士工業技術支援センター

課科スタッフ	事務職員	技術職員	会計年度任用職員
センター長		1	
研究調整官		1	
分室長	1		
総務担当	1		1
技術支援担当		1	
製紙		3	3
CNF		4	
機械電子		4	
計	2	14	4

職員名簿

組 織	職名		氏 名	組 織	職名		氏 名
センター長			飯野 修	CNF科	科 長	山下 晶平	
研究調整官			本多 正計		上席研究員	田中 翔悟	
総務課分室長（事）			高松 彰		主任研究員	中島 大介	
総務担当	主 査(事)	勝山 祥光			主任研究員	山崎 利樹	
	会計年度任用職員 1名						
技術支援担当	上席研究員	鈴木 光彰					
製紙科	科 長	深沢 博之		機械電子科	科 長	増井 裕久	
	上席研究員	伊藤 彰			上席研究員	齊藤 和明	
	上席研究員	河部 千香			主任研究員	井出 達樹	
	会計年度任用職員 3名				主任研究員	大賀 久美	
(事)は事務職員、その他は技術職員(会計年度任用職員を除く)							

エ 浜松工業技術支援センター

課科スタッフ	事務職員	技術職員	会計年度任用職員
センター長		1	
研究統括官		1	
分室長	1		
総務担当	2		1
技術支援担当		1	2
光		4	
機械電子		8	3
材料		6	4
繊維高分子材料		4	3
計	3	25	13

職員名簿

組 織		職名		氏 名		組 織		職名		氏 名	
センター長				鈴木 敬明		機械電子科	上席研究員		大澤 洋文		
研究統括官				伊藤 芳典			主 任		三浦 清		
総務課分室長(事)				澤木 竜彦			主任研究員		山口 智之		
総務担当		主 査(事)		内藤 由衣希			会計年度任用職員 3名				
		主 任(事)		平嶋 高幸		材料科	科 長		木野 浩成		
		会計年度任用職員 1名					上席研究員		吉岡 正行		
技術支援担当		上席研究員		矢嶋 雅			上席研究員		高木 誠		
		会計年度任用職員 2名					上席研究員		田光 伸也		
光科		科 長		渥美 博安			上席研究員		植松 俊明		
		上席研究員		中野 雅晴			主任研究員		望月 智文		
		上席研究員		志智 亘			会計年度任用職員 4名				
		主 任		植田 浩安		繊維高分子材料科	科 長		鈴木 重好		
機械電子科		科 長		長谷川 和宏			上席研究員		針幸 達也		
		上席研究員		山田 浩文			主 任		宮原 鐘一		
		上席研究員		太田 幸宏			研究員		大木 結以		
		上席研究員		長津 義之			会計年度任用職員 3名				
上席研究員		上野 貴康		(事)は事務職員、その他は技術職員(会計年度任用職員を除く)							

(6) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの決算

ア 工業技術研究所

(ア) 歳入

(単位：円)

科 目	調 定 額	収 入 額	収入未済額	備 考
使用料・手数料	24,880	24,880 (証紙134,537,590)	0	
財 産 収 入	594,000	594,000	0	
諸 収 入	8,947,198	8,947,198	0	
計	9,566,078	9,566,078 (証紙134,537,590)	0	

(イ) 歳出（人件費を除く）

(単位：円)

科 目	令 達 額	支 出 額	残 額	備 考
経営管理費	11,124,561	11,124,561	0	
経済産業費	200,887,925	200,887,925	0	
計	212,012,486	212,012,486	0	

歳出内訳

○経営管理費	経営管理費	11,124,561 円
○経済産業費	経済産業費	32,070 円
	産業革新費	30,511,613 円
	商工業費	170,344,242 円

(ウ) 国庫補助等

(単位：円)

補助金等の名称	県 事 業 名	事業費
科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 (独立行政法人 日本学術振興会)	公募競争型資金活用研究事業費	981,513
	工業技術研究所試験研究費	1,350,720
研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム産学共同 (育成型) (国立研究開発法人科学技術振興機構)	公募競争型資金活用研究事業費	1,076,000
	研究機器等整備事業費	913,000
公設工業試験研究所等における機械設備拡充 補助事業 ((公財) J K A)	工業技術研究所試験検査機器整備事業費 (機器名：分光分析機器 (F T - I R))	30,690,000

イ 沼津工業技術支援センター

(ア) 歳入

(単位：円)

科 目	調 定 額	収 入 額	収入未済額	不納欠損額	備 考
使用料・手数料	1,331,212	1,331,212 (証紙8,199,950)	0	0	
財 産 収 入	6,050	6,050	0	0	
諸 収 入	2,713,333	2,713,333	0	0	
計	4,050,595	4,050,595 (証紙8,199,950)	0	0	

(イ) 歳出（人件費を除く）

(単位：円)

科 目	令 達 額	支 出 額	残 額	備 考
経営管理費	7,156,262	7,156,262	0	
経済産業費	129,588,361	129,588,361	0	
計	136,744,623	136,744,623	0	

歳出内訳

○経営管理費	経営管理費	7,156,262 円
○経済産業費	経済産業費	23,270 円
	産業革新費	2,546,156 円
	商工業費	127,018,935 円

(ウ) 国庫補助等

(単位：円)

補助金等の名称	県 事 業 名	事業費
公設工業試験研究所等における機械設備拡充補助事業（（公財）J K A）	工業技術研究所試験検査機器整備事業費 (機器名：エネルギー分散型X線分析装置(SEM))	50,270,000

歳出内訳

○経営管理費	経営管理費	1,927,311 円
○健康福祉費	感染症対策費	13,580 円
○経済産業費	経済産業費	4,620 円
	産業革新費	3,611,392 円
	商工業費	87,603,843 円

ウ 富士工業技術支援センター

(ア) 歳入

(単位：円)

科 目	調 定 額	収 入 額	収入未済額	備 考
使用料・手数料	1,853,266	1,853,266 (証紙 12,731,080)	0	
諸 収 入	1,985,082	1,985,082	0	
計	3,838,348	3,838,348 (証紙 12,731,080)	0	

(イ) 歳出（人件費を除く）

(単位：円)

科 目	令 達 額	支 出 額	残 額	備 考
経営管理費	6,405,000	6,405,000	0	
経済産業費	111,920,587	111,920,587	0	
計	118,325,587	118,325,587	0	

歳出内訳

○経営管理費	経営管理費	6,405,000 円
○経済産業費	経済産業費	4,140 円
	産業革新費	5,538,240 円
	商工業費	106,378,207 円

(ウ) 国庫補助等

(単位：円)

補助金等の名称	県 事 業 名	事業費
科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 (独立行政法人 日本学術振興会)	工業技術研究所試験研究費	962,950

エ 浜松工業技術支援センター

(ア) 歳入

(単位：円)

科 目	調 定 額	収 入 額	収入未済額	備 考
使用料・手数料	2,696,649	2,696,649 (証紙 73,573,130)	0	
財 産 収 入	211,549	211,549	0	
諸 収 入	5,033,395	5,033,395	0	
計	7,941,593	7,941,593 (証紙 73,573,130)	0	

(イ) 歳出（人件費を除く）

(単位：円)

科 目	令 達 額	支 出 額	残 額	備 考
経営管理費	7,806,298	7,806,298	0	
経済産業費	273,807,888	273,807,888	0	
計	281,614,186	281,614,186	0	

歳出内訳

○経営管理費	経営管理費	7,806,298 円
○経済産業費	経済産業費	22,280 円
	産業革新費	63,997,539 円
	商工業費	209,788,069 円

(ウ) 国庫補助等

(単位：円)

補助金等の名称	県 事 業 名	事業費
公設工業試験研究所等における機械設備拡充補助事業費 (公益財団法人 J K A)	工業技術研究所試験検査機器整備事業費 (機器名：促進耐光性試験機)	7,887,000 (5,258,000)
デジタル田園都市国家構想交付金 (デジタル実装タイプ)	EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費	38,162,253 (37,862,473)

()内の数字は、事業費のうちの補助額。

(7) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの主要購入機器設備（金額1,000千円以上）

品 名	所属	購入金額 (千円)	事 業 名	区 分
分光分析機器 (FT-IR)	本所	30,690	工業技術研究所試験検査機器等整備事業	団体補助
実体顕微鏡	本所	1,430	工業技術研究所試験検査機器等整備事業	県単独
超純水製造装置	本所	2,988	工業技術研究所試験検査機器等整備事業	県単独
エネルギー分散型X線分析装置 (SEM)	沼津	50,270	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	団体補助
超低温フリーザー	沼津	1,679	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
試験用リファイナー	富士	4,400	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
標準離解機	富士	1,386	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
フローテーター	富士	1,584	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
カナダ標準型ろ水度試験機	富士	1,683	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
標準円形手すき機	富士	1,386	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
角型手すき機	富士	1,683	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
促進耐光性試験機	浜松	7,887	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	団体補助
画像測定機	浜松	7,337	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
試料研磨機	浜松	1,450	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
EMC用光メディアコンバータ	浜松	1,122	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
ベルト研磨機	浜松	1,485	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
分光測色計	浜松	2,904	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
イオンスパッタ	浜松	1,056	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
電解研磨腐食装置	浜松	1,958	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
熱・構造CAE装置	浜松	23,375	EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費	国補助
セミナー用モバイルワークステーション	浜松	2,433	EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費	国補助
視聴覚室音響機器	浜松	1,162	EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費	国補助
卓上マッフル炉	浜松	1,452	新成長戦略研究推進事業費	県単独
酸素窒素水素分析装置	浜松	7,370	新成長戦略研究推進事業費	県単独

2 事業実績

(1) 試験研究、調査及び指導事務

ア 研究開発

(ア) 研究課題

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの研究課題数

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金 による 研究	競争的 資金 以外の 研究	
工業技術研究所	3	5	8	1	10	27
沼津工業技術 支援センター	0	1	2	0	6	9
富士工業技術 支援センター	1	3	4	0	0	8
浜松工業技術 支援センター	2	2	3	0	6	13
合計	6	11	17	1	22	57

(a) 工業技術研究所の研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
金属材料科	0	1	1	1	3	6
化学材料科	0	0	3	0	0	3
機械電子科	1	0	1	0	0	2
照明音響科	1	1	0	0	0	2
食品科	1	1	0	0	3	5
環境エネルギー科	0	1	2	0	4	7
ユニバーサルデザイン科	0	1	0	0	0	1
工芸科	0	0	1	0	0	1
合計	3	5	8	1	10	27

(b) 沼津工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
バイオ科	0	1	1	0	4	6
機械電子科	0	0	1	0	2	3
合計	0	1	2	0	6	9

(c) 富士工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
製紙科	1	1	0	0	0	2
CNF科	0	1	3	0	0	4
機械電子科	0	1	1	0	0	2
合計	1	3	4	0	0	8

(d) 浜松工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
光科	1	0	0	0	0	1
機械電子科	0	0	2	0	0	2
材料科	1	1	1	0	4	7
繊維高分子材料科	0	1	0	0	2	3
合計	2	2	3	0	6	13

b 令和5年度研究課題名一覧
(a) 工業技術研究所研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門署	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
継続 R3～	人とコミュニケーションを図る次世代車載装置用樹脂レンズの開発	照明音響科	
継続 R4～	設備、モノ、ヒトの統合的データ分析による生産性の効率化	機械電子科	
新規	乳酸菌発酵による食品の感覚応答の増強・減弱	食品科	チャレンジ研究枠
県 単 独 研 究			
継続 R3～	豆乳タンパク質の新たな視点による挙動解析と濃縮技術開発	食品科	科学研究費助成事業（学振）
継続 R4～	半熔融成形法の高度化技術開発	金属材料科	
新規	高結晶コーヒーかす活性炭への白金埋込による高耐久性燃料電池触媒の開発	環境エネルギー科	科学研究費助成事業（学振）
新規	加工材における変形挙動再現の検討	ユニバーサルデザイン科・工芸科	
新規	音声認識技術を用いた自動車室内音環境の評価に関する研究	照明音響科	
一 般 共 同 研 究			
継続 R4～	資源循環型システムを志向した樹脂複合材のテラヘルツ波による非破壊検査手法の開発	化学材料科	
継続 R4～	自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械的物性向上及び成形性の安定化	化学材料科	
新規	好気性グラニュールを利用した高濃度窒素排水処理装置の開発	環境エネルギー科	
新規	リサイクルパルプ繊維を活用した塗り壁材の開発	工芸科	
新規	フォーミング加工では不可能な形状加工の工法開発	機械電子科	新成長産業戦略的育成事業産学官連携研究開発助成事業（財団）
新規	ポリプロピレン／セルロース繊維複合材射出成形品への高密着なめつき技術の開発	金属材料科	
新規	CNF複合樹脂を用いた発泡ブロー成形技術の開発	化学材料科	
新規	白金の超強度化技術による大型モビリティ搭載用固体高分子形燃料電池電極触媒の開発	環境エネルギー科	A-STEP 産学共同（育成型）（JST）

新・継 開始年	課 題 名	担当部門署	備 考
受託研究（競争的資金による研究）			
継続 R4～	エアコンの省エネ性能を躍進する軽量高剛性スクロールの量産化システムの開発	金属材料科	新成長産業戦略的育成事業助成事業事業化推進助成事業（財団）
受託研究（競争的資金以外の研究）			
新規	持続可能な地産地消型バイオガスエネルギー供給技術の開発と実証	環境エネルギー科	
新規	バイオマス由来活性炭を白金担体とした燃料電池触媒の性能向上	環境エネルギー科	
新規	特殊鋳鉄鋳物の耐食性に関する研究	金属材料科	
新規	微生物培養に適した食品残渣培地組成の検討	環境エネルギー科	
新規	魚残渣の骨代謝改善作用の研究	食品科	
新規	ラペソーと梅ヶ島食べる乳酸発酵茶の比較研究（好まれる嗜好について）	食品科	
新規	親水性金めっき膜の開発	金属材料科	
新規	半熔融成形法により作製したヒートシンクの放熱性に関する研究開発	金属材料科	
新規	静岡県産薔薇花卉および未利用部位抽出エキスの香気成分評価	食品科	
新規	有機性汚泥の可溶化・メタン発酵技術によるバイオガスエネルギー変換 プロセスの開発	環境エネルギー科	

注）学振：（独）日本学術振興会、JST：（国研）科学技術振興機構、財団：（公財）静岡県産業振興財団

(b) 沼津工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
県 単 独 研 究			
継続 R4～	抗炎症効果のある伊豆特産サクラ葉抽出物の素材化と作用機序解析	バイオ科	
一 般 共 同 研 究			
継続 R3～	本県独自の清酒用種麹の開発フローの構築	バイオ科	
新規	二軸引張試験を活用した成形シミュレーションの予測精度向上	機械電子科	新成長産業戦略的育成事業産学官連携研究開発助成事業(財団)
受託研究(競争的資金以外の研究)			
新規	温間プレス成形後の材料評価	機械電子科	
新規	高温成形加工を活用した新たな加工方法の検討	機械電子科	
新規	自然界分離酵母のビール醸造適性評価	バイオ科	
新規	熱海の未活用魚からの酵母単離とビール醸造適性の評価	バイオ科	
新規	令和5年静岡県清酒鑑評会における出品酒の成分分析とそれら成分が官能評価に与える影響に関する調査研究	バイオ科	
新規	ワサビの病害原因微生物に有効な抗菌物質を生産する微生物の探索	バイオ科	

注) 財団：(公財) 静岡県産業振興財団

(c) 富士工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継続 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
新規	サステナブルファッションに寄与する廃棄衣料を利用した製紙技術の開発	製紙科	政策課題指定枠
県 単 独 研 究			
継続 R4～	加温処理による紙の低密度化に関する研究	製紙科	
新規	A I を活用した古紙原料の判別に関する研究	機械電子科	
新規	植物由来の新素材「C N F」を使って環境にやさしい社会を実現させたい！	C N F 科	クラウドファンディング型研究
一 般 共 同 研 究			
継続 R3～	深層学習を用いた画像解析による牛群中での子牛の疾病検知システムの開発	機械電子科	科学研究費助成事業（学振）
継続 R4～	マイクロ波減圧乾燥によるC N F 濃縮技術の開発	C N F 科	
継続 R4～	リファイナーを用いた低コストCNF製造技術の開発	C N F 科	
継続 R4～	自動車用途向けC N F オレフィン系樹脂の機械的物性向上及び成形性の安定化	C N F 科	

注) 学振：(独)日本学術振興会

(d) 浜松工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継続 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
継続 R3～	人とコミュニケーションを図る次世代車載装置用樹脂レンズの開発	光科	
新規	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	材料科	
県 単 独 研 究			
継続 R4～	E V 向けコネクタ・スイッチ用めっきの特性向上に関する研究	材料科	
新規	熱可塑性炭素繊維強化複合材料 (CFRTP) の循環利用	繊維高分子材料科	
一 般 共 同 研 究			
継続 R3～	めっきを利用した鉄-アルミニウム接合技術の開発	材料科	助成研究一般発展型 (東海財団)
継続 R4～	IoT・機械学習を活用した長期稼働機器の遠隔診断技術の開発	機械電子科	
新規	簡易的な電波到来方向推定システムの開発	機械電子科	
受託研究 (競争的資金以外の研究)			
新規	レザーシート基布の水平リサイクルに向けたペレット化手法の確立	繊維高分子材料科	
新規	金型を用いた等温熱処理の金属組織の影響	材料科	
新規	EPMAによる機械構造用炭素鋼の炭素含有率の推定	材料科	
新規	3Dプリンタを用いたレーザ溶接用シールドガス導入機構の検討	材料科	
新規	生分解性ブレンド樹脂の紡糸条件の検討	繊維高分子材料	
新規	不整脈治療器具向け表面処理技術の開発	材料科	

注) 東海財団: (一財) 東海産業技術振興財団

(イ) 外部研究員招へい事業

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの合計

	人 数	指導時間
工業技術研究所	8	5 0
沼津工業技術支援センター	6	2 0
富士工業技術支援センター	4	2 9
浜松工業技術支援センター	7	5 1
合 計	2 5	1 5 0

b 外部研究員一覧

(a) 工業技術研究所外部研究員

所 属	専 門	指導を受ける内容	指導 時間 (計画)
東京大学大学院	バイオマス材料、 木材科学	キチン・キトサンファイバー を添加した抗菌塗料の開発	8
中部大学	音声情報処理	音声認識技術を用いた自動車 室内音環境の評価に関する研究	1 0
関東学院大学	材料工学	高密着な樹脂めっき作製方法 について	8
静岡県立大学	調理科学、食品物 性学	食品の官能評価手法について	4
(株)木村鋳造所	環境処理による防 食，水質化学，腐 食モニタリング	電気化学試験の腐食評価への 活用	4
敬愛技術士事務所	燃料電池	燃料電池の耐久性向上に関す る技術動向	6
東京農業大学大学院	応用微生物学、微 生物生態解析	バイオマスを原料とした微生 物発酵によるバイオガス生産 に関する技術指導	6
成蹊大学	産業人間工学	ソフトウェアを用いた簡便な 腰痛リスク評価について	4
合 計 8 人		合 計 5 0 時間	

(b) 沼津工業技術支援センター外部研究員一覧

所 属	専 門	指導を受ける内容	指導 時間 (計画)
東北大学	金属材料	医療用材料の加工技術について	4
農研機構	食品衛生微生物学	検査技術を中心とした食品衛生と HACCP に関する指導	3
(株)日本食糧新聞社	食品衛生微生物学	法律や制度を中心とした食品衛生と HACCP に関する指導	3
静岡大学	応用微生物学	本県独自の清酒用種麹の開発フローの構築	4
東京農業大学	醸造学	本県独自の清酒用種麹の開発フローの構築	3
東京農業大学	醸造学	酒類製造技術及び関連試験手法について	3
合計 6 人		合計 20 時間	

(c) 富士工業技術支援センター外部研究員一覧

所 属	専 門	指導を受ける内容	指導 時間 (計画)
東京農工大学大学院	紙パルプ科学、セルロース科学、ナノ材料学	加温処理による紙の低密度化に関する指導、製紙概要	15
沼津工業高等専門学校	振動工学、信号処理技術	深層学習を用いた画像解析による牛群中での子牛の疾病検知システムの開発	6
中部大学	機械知覚、ロボティクス	深層学習を用いた画像解析による牛群中での子牛の疾病検知システムの開発	4
(一社) 静岡県紙パルプ技術協会	製紙工学	廃棄衣料をリサイクルするための製紙技術の開発	4
合計 4 人		合計 29 時間	

(d) 浜松工業技術支援センター外部研究員一覧

所 属	専 門	指導を受ける内容	指導 時間 (計画)
兵庫県立大学	金属粉末の作製と 評価方法	金属 3D プリンタを活用したも のづくり支援のための積層造形 技術開発	9
福井大学大学院	光学関係	人とのコミュニケーションを図 る次世代車載用樹脂レンズの開 発	4
静岡大学	高分子材料	高分子材料の成形加工技術	8
理化学研究所環境 資源科学研究セン ター	高分子材料	高分子材料の成形加工技術	4
浜松地域 CFRP 事業 化研究会	高分子材料・複 合材	高分子材料の成形加工技術	6
近畿大学	金属材料	金属 3D プリンタを活用したも のづくり支援のための積層造形 技術開発	6
(株)TEK	CAE	SOLIDWORKS による伝熱、熱流 体及び構造解析	1 4
合計 7 人		合計 51 時間	

(ウ) 特許等の登録及び出願

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの合計（令和6年3月31日現在）

	出願中件数	登録件数
工業技術研究所	5	1 6 ¹⁾
沼津工業技術支援センター	0	1
富士工業技術支援センター	0	3
浜松工業技術支援センター	2 ²⁾	1 4 ³⁾
合 計	7	3 4

1) 意匠登録2件を含む。（内1件は外国での意匠登録）

2) 外国で特許出願中の2件。

3) 外国登録特許7件を含む。

b aのうち特許等出願、登録及び消滅件数

	出願件数	登録件数	消滅件数
工業技術研究所	1	1	8
沼津工業技術支援センター	0	0	0
富士工業技術支援センター	0	1	1
浜松工業技術支援センター	0	1	4
合 計	1	3	1 3

イ 技術相談等

(ア) 技術相談

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの相談件数合計

	工業技術 研究所	沼津工業技術 支援センター	富士工業技術 支援センター	浜松工業技術 支援センター	合 計
技術相談	14,262	2,880	3,258	11,929	32,329
実地指導	1,796	223	224	508	2,751
合 計	16,058	3,103	3,482	12,437	35,080

(a) 工業技術研究所の相談件数

所 属	金属材料科	化学材料科	機械電子科	照明音響科
技術相談	1,114	2,325	790	1,350
実地指導	146	87	97	90
合 計	1,260	2,412	887	1,440
所 属	食品科	環境エネルギー科	ユニバーサルデザイン科	工芸科
技術相談	2,923	2,053	1,452	1,801
実地指導	294	290	401	108
合 計	3,217	2,343	1,853	1,909
所 属	その他	合計		
技術相談	454	14,262		
実地指導	283	1,796		
合 計	737	16,058		

(b) 沼津工業技術支援センター相談件数

所 属	バイオ科	機械電子科	その他	合計
技術相談	652	2, 121	107	2, 880
実地指導	146	4	73	223
合 計	798	2, 125	180	3, 103

(c) 富士工業技術支援センター相談件数

所 属	製紙科	C N F 科	機械電子科	その他
技術相談	1, 633	652	866	107
実地指導	53	118	20	33
合 計	1, 686	770	886	140
所 属	合計			
技術相談	3, 258			
実地指導	224			
合 計	3, 482			

(d) 浜松工業技術支援センター相談件数

所 属	光科	機械電子科	材料科	繊維高分子材料科
技術相談	753	3, 797	5, 484	1, 723
実地指導	116	88	90	67
合 計	869	3, 885	5, 574	1, 790
所 属	その他	合計		
技術相談	172	11, 929		
実地指導	147	508		
合 計	319	12, 437		

(イ) 依頼試験

c 依頼試験内訳（工業技術研究所及び工業技術支援センターの合計）

		件 数	金額(円)
1 分析	定性分析	1,695	9,614,290
	定量分析	699	3,567,120
2 工業用材料	材料強度試験	962	1,831,510
	長期性能試験	15,074	5,263,260
	特殊試験	412	3,372,670
3 木材工業	木材試験	32	209,760
	塗料試験	3	4,380
	製品試験	552	2,019,500
4 化学工業	金属表面処理試験	52	261,510
	プラスチック及びゴム試験	219	868,560
	微生物試験	6	29,920
	セラミックス試験		
	熱勘定試験		
5 機械金属工業	精密測定	35	81,980
	機械器具の検査及び試験	16	75,840
	金属試験	275	1,126,090
	電気試験		
6 包装材料	包装材料試験	2	4,060
7 繊維工業	繊維材料試験	1	3,570
	編織試験	41	109,880
	染色試験		
	整理仕上加工試験		
8 製紙工業	原材料試験	36	406,440
	紙質試験	200	523,890
	製紙及び紙加工試験	6	65,520
9 加工	塗装加工		
	木竹材加工		
10 設計及び調整	機械等の設計及び調整	209	621,790
	繊維デザイン	27	72,360
	商業及び工業デザイン	4	14,120
11 写真及び複写		566	60,640
12 成績書の複本		4	1,960
合 計		21,128	30,210,620

(a) 工業技術研究所の依頼試験実績

		件 数	金額(円)
1 分析	定性分析	332	3,479,050
	定量分析	443	1,730,860
2 工業用材料	材料強度試験	785	1,386,550
	長期性能試験	6,671	3,133,950
	特殊試験	237	2,323,770
3 木材工業	木材試験	32	209,760
	塗料試験	3	4,380
	製品試験	552	2,019,500
4 化学工業	金属表面処理試験	6	43,740
	プラスチック及びゴム試験	219	868,560
	微生物試験		
	セラミックス試験		
	熱勘定試験		
5 機械金属工業	精密測定	3	3,420
	機械器具の検査及び試験		
	金属試験	29	198,250
	電気試験		
6 包装材料	包装材料試験		
7 繊維工業	繊維材料試験		
	編織試験		
	染色試験		
	整理仕上加工試験		
8 製紙工業	原材料試験		
	紙質試験		
	製紙及び紙加工試験		
9 加工	塗装加工		
	木竹材加工		
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製		
	繊維デザイン		
	商業及び工業デザイン	4	14,120
11 写真及び複写			
12 成績書の複本			
合 計		9,316	15,415,910

(b) 沼津工業技術支援センターの依頼試験実績

		件 数	金額(円)
1 分析	定性分析	101	661,730
	定量分析	100	334,920
2 工業用材料	材料強度試験	74	182,340
	長期性能試験		
	特殊試験	53	266,990
3 木材工業	木材試験		
	塗料試験		
	製品試験		
4 化学工業	金属表面処理試験		
	プラスチック及びゴム試験		
	微生物試験	6	29,920
	セラミックス試験		
	熱勘定試験		
5 機械金属工業	精密測定	32	78,560
	機械器具の検査及び試験	16	75,840
	金属試験	69	212,940
	電気試験		
6 包装材料	包装材料試験		
7 繊維工業	繊維材料試験		
	編織試験		
	染色試験		
	整理仕上加工試験		
8 製紙工業	原材料試験		
	紙質試験		
	製紙及び紙加工試験		
9 加工	塗装加工		
	木竹材加工		
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製	18	114,420
	繊維デザイン		
	商業及び工業デザイン		
11 写真及び複写		94	30,320
12 成績書の複本			
合 計		563	1,987,980

(c) 富士工業技術支援センターの依頼試験実績

		件 数	金額(円)
1 分析	定性分析		
	定量分析		
2 工業用材料	材料強度試験	13	18, 070
	長期性能試験	522	169, 460
	特殊試験		
3 木材工業	木材試験		
	塗料試験		
	製品試験		
4 化学工業	金属表面処理試験		
	プラスチック及びゴム試験		
	微生物試験		
	セラミックス試験		
	熱勘定試験		
5 機械金属工業	精密測定		
	機械器具の検査及び試験		
	金属試験		
	電気試験		
6 包装材料	包装材料試験	2	4, 060
7 繊維工業	繊維材料試験		
	編織試験		
	染色試験		
	整理仕上加工試験		
8 製紙工業	原材料試験	36	406, 440
	紙質試験	200	523, 890
	製紙及び紙加工試験	6	65, 520
9 加工	塗装加工		
	木竹材加工		
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製		
	繊維デザイン		
	商業及び工業デザイン		
11 写真及び複写			
12 成績書の複本		4	1, 960
合 計		783	1, 189, 400

(d) 浜松工業技術支援センターの依頼試験実績

		件 数	金額(円)
1 分析	定性分析	1,262	5,473,510
	定量分析	156	1,501,340
2 工業用材料	材料強度試験	90	244,550
	長期性能試験	7,881	1,959,850
	特殊試験	122	781,910
3 木材工業	木材試験		
	塗料試験		
	製品試験		
4 化学工業	金属表面処理試験	46	217,770
	プラスチック及びゴム試験		
	微生物試験		
	セラミック試験		
	熱勘定試験		
5 機械金属工業	精密測定		
	機械器具の検査及び試験		
	金属試験	177	714,900
	電気試験		
6 包装材料	包装材料試験		
7 繊維工業	繊維材料試験	1	3,570
	編織試験	41	109,880
	染色試験		
	整理仕上加工試験		
8 製紙工業	原材料試験		
	紙質試験		
	製紙及び紙加工試験		
9 加工	塗装加工		
	木竹材加工		
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製	191	507,370
	繊維デザイン	27	72,360
	商業及び工業デザイン		
11 写真及び複写		472	30,320
12 成績書の複本			
合 計		10,466	11,617,330

(ウ) 機器使用等

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの機器使用等の実績合計

		時間数	金額(円)
機器使用		81,566	94,414,320
研修施設等使用	研修施設	377	504,650
	無響室	151	566,250
	電波暗室	445	3,092,750
	車載機器用EMS電波暗室	399	2,273,400
	車載機器用EMI電波暗室	304	1,595,800
	BCI試験室(シールドルーム)	213	834,600
	車載機器試験用シールドルーム	242	1,045,200
合 計		83,697	104,326,970

(a) 工業技術研究所の機器使用等の実績

		時間数	金額(円)
機器使用		28,535	24,370,670
研修施設等使用	研修施設	60	66,000
	無響室	1	3,750
合 計		28,596	24,440,420

(b) 沼津工業技術支援センターの機器使用等の実績

		時間数	金額(円)
機器使用		5,351	6,144,770
研修施設		48	67,200
合 計		5,399	6,211,970

(c) 富士工業技術支援センターの機器使用等の実績

		時間数	金額(円)
機器使用		10,430	11,449,330
研修施設		189	269,450
合 計		10,619	11,718,780

(d) 浜松工業技術支援センターの機器使用等の実績

		時間数	金額(円)
機器使用		37,250	52,449,550
研修施設等使用	研修施設	80	102,000
	無響室	150	562,500
	電波暗室	445	3,092,750
	車載機器用EMS電波暗室	399	2,273,400
	車載機器用EMI電波暗室	304	1,595,800
	BCI試験室(シールドルーム)	213	834,600
	車載機器試験用シールドルーム	242	1,045,200
合 計		39,083	61,955,800

(エ) 研究会の育成

a 工業技術研究所

研 究 会 名	発 足 年 月	会 員 数
静岡県プレス技術研究会	昭和44年 6月	37社
静岡県食品技術研究会	昭和47年12月	105社・個人・団体
静岡県資源環境技術研究会	昭和44年11月	67社・人
静岡県プラスチック技術研究会	平成 2年 6月	32社・人
静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会	平成 7年 5月	32社
静岡県アウトドア技術研究会	令和 5年11月	23社

b 沼津工業技術支援センター

研 究 会 名	発 足 年 月	会 員 数
静岡県東部精密技術研究会	平成 2年 6月	35社・団体
静岡県バイオテクノロジー研究会	昭和59年 9月	26社・個人・団体

c 富士工業技術支援センター

研 究 会 名	発 足 年 月	会 員 数
静岡県紙バ技術研究フォーラム	昭和62年 9月	10社

d 浜松工業技術支援センター

研 究 会 名	発 足 年 月	会 員 数
浜松機械技術研究会	昭和39年12月	61社
表面技術研究会	昭和60年 8月	38社
浜松繊維加工技術研究会	平成 7年 7月	13社
浜松品質工学研究会	平成 9年 3月	15人
浜松EMC研究会	平成20年 6月	21社
浜松地域CFRP事業化研究会	平成21年 4月	45(社・個人)
はままつ超ハイテン研究会	平成28年 6月	15社

(オ) 研修生の受入れ

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの実績合計

単位：人

	一般研修	就業体験研修	連携大学院
工業技術研究所	7	2	0
沼津工業技術支援センター	0	0	0
富士工業技術支援センター	0	0	0
浜松工業技術支援センター	0	0	0
合計	7	2	0

(a) 工業技術研究所の研修生

一般研修			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属
食品科	肉の成分分析	令和5年7月3日～ 令和6年3月31日	県内大学 2人
工芸科	家具試験機について	令和5年5月19日	県外公設試 1人
工芸科	シャルピー試験機による木材 破壊挙動の解析	令和5年6月19日～ 令和6年3月22日	県外大学院 1人
照明音響科	光学計測	令和5年10月13日	県外公設試 3人
就業体験研修（インターンシップ）			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属
食品科・環境エネ ルギー科・工芸 科・金属材料科・ 化学材料科	各科業務体験	令和5年9月4日～ 令和5年9月8日	県内大学 1人 県外大学 1人
連携大学院関係			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属
受入れなし			

ウ 技術情報提供

(ア) 研究報告関係

研究成果事例集	展示会での閲覧及び協議会等で配布 ホームページに掲載
工業技術研究所研究報告	750部

(イ) 研究発表会関係

研 究 発 表 会	工業技術研究所	開催年月日	R6. 3. 7
		参加者数	151人
		要旨集	発行150部 Webで公開
	沼津工業技術 支援センター	開催年月日	バイオ科は工技研と合同開催 機械電子科は富士と合同開催
		参加者数	217人
		要旨集	発行175部 Webで公開
	富士工業技術 支援センター	開催年月日	R6. 3. 8
		参加者数	66人
		要旨集	発行25部 Webで公開
	浜松工業技術 支援センター	開催年月日	R6. 3. 4
		参加者数	117人
		要旨集	発行130部 Webで公開

(a) 令和5年度静岡県工業技術研究所研究発表会の実績

テ ー マ 名	発表者
機械電子科の業務の紹介	山下 清光
3次元形状測定事例の紹介	鈴木 悠介
RFIDタグによる倉庫の物品の管理	望月 紀寿
生産計画自動作成のアルゴリズムおよびアプリケーションの開発	松下 五樹
バーチャルセンシングによるIoT機器設置検討支援システムの提案	岩崎 清斗
IoT導入支援について	横井 功毅
照明音響科の業務の紹介	木野 直樹
路面にピクトグラム投影するマイクロプリズムアレイの開発 ー投影能力と熱ナノインプリントプロセスによる成形の実証ー	豊田 敏裕
共焦点顕微鏡と光干渉計によるマイクロプリズムアレイの表面形状評価技術の確立	柳原 亘
音声認識技術を用いた自動車室内音環境の評価について (I) ー既存技術を活用した音声認識評価システムの構築ー	竹居 翼
食品科の取組について	大竹 正寿
静岡県産バラを活用した新規化粧品品の香り評価	松野 正幸
静岡県産食べる発酵茶(ラペソー)の商品開発	山本 佳奈恵
魚残渣の生理活性に関する研究	長房 秀幸
乳酸菌発酵による食品から得られる感覚の制御	堀池 隼雄
環境エネルギー科の紹介	本間 信行
材料中の元素の精密定量分析についてー技術支援事例の紹介ー	岡本 哲志
固形バイオマスの全有機体炭素分析とメタン発酵試験への応用について	室伏 敬太
メタン発酵性能試験について	井口 大輔
燃料電池触媒の発電性能評価	菊池 圭祐
金属材料科の業務紹介と摩擦攪拌接合した半溶融成形材の疲労特性	岩澤 秀
金属材料科の機器紹介	鈴木 洋光
半溶融成形法で作製したヒートシンクの放熱性評価	磯部 佑太
ポリプロピレン/CNF複合材へのめっき技術の開発 ー射出成形条件の検討ー	田中 宏樹
化学材料科の紹介	鷺坂 芳弘
セルロース繊維 (CNF) を含むマスターバッチの取扱い上の留意点	菅野 尚子
熱損失を考慮したフラッシュ法による発泡ブロー成形品の熱伝導率評価	結城 茜

テ ー マ 名	発表者
セルロース繊維複合樹脂における繊維凝集化の影響	小泉 雄輔
製品中のセルロースナノファイバー（CNF）定量分析手法の開発	野澤 遼
工芸科の業務紹介と国内6大家具産地公設試の支援体制について	田村 克浩
静岡県工業技術研究所工芸科での家具試験について	村松 重緒
家具試験を再現するCAE解析に向けたヤング率の導出	船井 孝
木質材料におけるホルムアルデヒド放出量試験について	前田 研司
ユニバーサルデザイン科紹介	長澤 正
トイレ介助移動機器開発に関する調査と試作提案	易 強
デザインマッチング事業の御紹介	及川 貴康
レーザー加工機・UVプリンタ等の活用事例紹介	多々良 哲也

（b）令和5年度沼津工業技術支援センター研究発表の実績

テ ー マ 名	発表者
金属材料の引張試験における試験条件設定のポイント ～引張強さに及ぼす試験速度と試験片採取方向の影響～	木村 光平
板成形シミュレーションの高精度化に向けた取組 ～二軸引張試験を活用した材料データの取得～	是永 宗祐
バイオ科の業務紹介	飯塚 千佳世
伊豆特産サクラ葉の素材化と抗炎症評価	袴田 雅俊
本県初！静岡オリジナル清酒用種麹の開発	鈴木 雅博

（c）令和5年度富士工業技術支援センター研究発表会の実績

テ ー マ 名	発表者
セルロースナノファイバー製造時のエネルギー低減のためのTEMPO酸化法の適用及び解繊方法の検討	中島 大介
マイクロ波減圧乾燥によるCNF濃縮技術の開発（第2報）	山崎 利樹
遠州織物を利用したリサイクル紙の開発とその活用方法	伊藤 彰
加温処理による紙の低密度化効果の検証及びメカニズムの追究	深沢 博之
AIを活用した古紙原料の判別に関する研究	齊藤 和明
AIを用いたスマート畜産への取組について ～画像解析による子牛の疾病検知システムの開発～	井出 達樹

(d) 令和5年度浜松工業技術支援センター研究発表会の実績

テ ー マ 名	発表者
材料科における研究開発・技術支援への取り組み	木野 浩成
材料分析の依頼に際して知っておいて頂きたいコト	吉岡 正行
バウシンガー効果及び二軸引張測定 ー精密万能材料試験機の紹介ー	高木 誠
金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	田光 伸也
ステンレス鋼の積層造形物の内部欠陥にレーザ条件が与える影響	植松 俊明
アルミニウム合金の積層造形に造形雰囲気を与える影響	望月 智文
アルミニウム合金の積層造形物の形状評価	大澤 洋文
スモールスタートで始めるIoT導入 ー当センターの支援内容と導入事例ー	太田 幸宏
機械電子科における研究開発・技術支援への取り組み	長谷川 和宏
設計開発を効率化するデジタルものづくり技術 ーデジタルものづくりセンターの紹介と当センターの支援内容ー	長津 義之
トポロジー最適化ソフト“nTop”を用いた形状最適化設計	山口 智之
EMC試験における伝導妨害波測定の始業前点検法 ー疑似電源回路網の故障の一例ー	山田 浩文
電波到来方向の簡易的推定技術の検討	上野 貴康
繊維高分子材料科における研究開発・技術支援への取り組み	鈴木 重好
生分解性繊維の紡糸条件の検討と分解性評価	大木 結以
光科における研究開発・技術支援への取り組み	渥美 博安
光学設計やシミュレーション技術による表面傷検出装置と図形投影光学素子の性能向上事例	志智 亘
光造形で作製した微細光学素子の形状評価	中野 雅晴

(ウ) 研究所情報等の提供

刊 行 物 名	発行部数 (部)	ホームページ 掲載
工業技術研究所各科紹介チラシ	—	○
沼津工業技術支援センターニュース	—	○
富士工業技術支援センターニュース	—	—
富士工業技術支援センター利用案内	—	—
浜松工業技術支援センターニュース	—	—
静岡県工業技術情報	—	○
静岡県工業技術研究所年報	—	○
静岡県工業技術研究所メールマガジン (2週間に1回発行)	28回	—

(エ) 研究所の事業広報等

見学の受入	工業技術研究所		100人
	沼津工業技術支援センター		35人
	富士工業技術支援センター		183人
	浜松工業技術支援センター		756人
「県民の日」 研究所 フェア 及び センター フェア	工業技術研究所	開催年月日	R5. 8. 4
		参 加 者 数	82人
	沼津工業技術支援センター	開催年月日	R5. 8. 4
		参 加 者 数	7人
	富士工業技術支援センター	開催年月日	R5. 8. 4
		参 加 者 数	73人
	浜松工業技術支援センター	開催年月日	R5. 8. 4
		参 加 者 数	98人

(オ) 講習会等

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの実績合計

	実施回数	参加者数
工業技術研究所	2 5	7 6 6
沼津工業技術支援センター	5	1 2 8
富士工業技術支援センター	1 5	2 0 4
浜松工業技術支援センター	2 3	1, 0 1 0
合計	6 8	2, 1 0 8

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	件 名	会 場	参加者数	共 催 等
R5. 6. 15	食品技術研修会	第276回 Web開催及びホテル グランヒルズ静岡	96	静岡県食品技術研究会 静岡県食品産業協議会
R5. 9. 28		第277回 ホテルアソシア静岡	89	静岡県食品技術研究会 静岡大学・生物産業創出拠点 静岡県食品産業協議会
R5. 11. 30		第278回 Web開催及びホテル グランヒルズ静岡	107	静岡県食品技術研究会 静岡県食品産業協議会
R6. 2. 21		第279回 県内3カ所	31	
R5. 6. 23	ロボットティーチング講座	工業技術研究所	14	—
R5. 12. 7			7	
R5. 6. 27	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座	工業技術研究所	12	静岡県IoT導入推進コンソーシアム
R5. 9. 28		浜松工業技術支援センター	13	
R5. 10. 24		沼津工業技術支援センター	10	
R5. 7. 31	静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会講習会	第1回	20	静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会
R5. 10. 19		第2回 工業技術研究所	18	
R5. 12. 14		第3回	25	
R6. 3. 19		第4回 静岡県教育会館	16	

年月日	件 名	会 場	参加者数	共 催 等
R5. 9. 12	静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会見学会	県内企業	10	静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会
R5. 10. 3	成果発表会in静岡	工業技術研究所	16	静岡県IoT導入推進コンソーシアム
R5. 10. 26	プラスチック成形技術講習会	静岡駅前会議室LINK	27	静岡県プラスチック技術研究会
R5. 10. 31	第12回排水処理技術セミナー	工業技術研究所	79	静岡県資源環境技術研究会
R5. 12. 12	塑性加工における潤滑剤の役割	工業技術研究所	29	静岡県プレス技術研究会
R5. 12. 19	プラスチックリサイクル技術講習会	工業技術研究所	50	静岡県プラスチック技術研究会
R6. 1. 18	成果発表会in浜松	浜松工業技術支援センター	8	静岡県IoT導入推進コンソーシアム
R6. 1. 18	第27回分析技術研修会	工業技術研究所	29	静岡県資源環境技術研究会
R6. 1. 25	デジタルツイン技術セミナー	工業技術研究所	17	—
R6. 2. 7	プラスチック分析技術講習会「赤外分光分析セミナー」	工業技術研究所	19	静岡県プラスチック技術研究会
R6. 2. 13	成果発表会in沼津	沼津工業技術支援センター	11	静岡県IoT導入推進コンソーシアム
R6. 2. 14	第2回CNF実践セミナー	工業技術研究所	13	静岡大学、富士市
実施回数 25 回			参加者数 766 人	

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	件 名	会 場	参加者数	共 催 等
R5. 6. 29	静岡県バイオテクノロジー研究会特別講演会	中島屋グランドホテル	21	静岡県バイオテクノロジー研究会
R5. 8. 28	技術セミナー「正しい腐食促進試験方法と複合サイクル腐食試験機の活用」	沼津工業技術支援センター	19	沼津センター協議会
R5. 8. 30	酒造研修	(Web)	51	静岡県酒造組合、静岡県杜氏研究会
R5. 12. 8	静岡県バイオテクノロジー研究会企業発表会・講演会	静岡県男女共同参画センターあざれあ	18	静岡県バイオテクノロジー研究会
R6. 2. 26	静岡県バイオテクノロジー研究会見学会	藤枝市内2ヶ所	19	静岡県バイオテクノロジー研究会
実施回数 5 回			参加者数 128 人	

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	件名		会場	参加者数	共催等
R5. 5. 12	静岡県紙パ技術研究フォーラム技術勉強会		富士工業技術支援センター	13	静岡県紙パ技術研究フォーラム
R5. 9. 8	機器分析の基礎セミナー		富士工業技術支援センター	35	富士センター協議会機械電子部会
R5. 11. 17	中部イノベネット初心者向け技術セミナー		富士工業技術支援センター	8	中部イノベネット
R5. 11. 30	紙パルプ技術セミナー	第1回	富士工業技術支援センター	37	富士センター協議会製紙部会
R6. 2. 1		第2回		30	
R6. 1. 18 ～19	静岡県紙パ技術研究フォーラム見学会		川之江造機株式会社、愛媛製紙株式会社	15	静岡県紙パ技術研究フォーラム
R6. 1. 19	CNF実践セミナー		富士工業技術支援センター	10	富士市、静岡大学
R6. 2. 14			工業技術研究所	13	
R6. 3. 15			富士工業技術支援センター	12	
R6. 2. 16	生産性向上を実現するAI		富士工業技術支援センター	24	富士センター協議会機械電子部会
R6. 3. 18	CNF技術者研修		富士工業技術支援センター	1	—
R6. 3. 19				2	
R6. 3. 21				1	
R6. 3. 26				1	
R6. 3. 27				2	
実施回数 15 回				参加者数 204 人	

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	件 名		会 場	参加者数	共 催 等
R5. 5. 30	金属3Dプリンター活用セミナー	3	浜松工業技術支援センター	101	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会
R5. 9. 26		4		61	
R5. 11. 24		5		75	
R6. 2. 27		6		86	

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R5. 6. 28	金属3Dプリンター活用ワークショップ	(1)	7	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会
R5. 11. 14 ～16		(2)	12	
R6. 3. 13 ～14		(3)	10	
R5. 7. 3 ～4	デジタルものづくりセミナー(3Dスキャナ活用講座)	浜松工業技術支援センター	92	浜松センター協議会 浜松機械技術研究会
R5. 7. 18	令和5年度製造中核人材育成講座	浜松工業技術支援センター	15	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構
R5. 7. 26 ～27	デジタル化等促進在職者訓練「積層造形金属3Dプリンター入門」	浜松工業技術支援センター	4	浜松技術専門校
R5. 9. 1	デジタルものづくりセンターキックオフセミナー	浜松工業技術支援センター	185	浜松センター協議会 浜松機械技術研究会
R5. 9. 14	切削加工におけるカーボンニュートラルと最新ソリューションセミナー	浜松工業技術支援センター	28	浜松センター協議会 浜松機械技術研究会
R5. 9. 21	2023年度浜松地域CFRP事業化研究会講演会	浜松工業技術支援センター	40	浜松地域CFRP事業化研究会
R5. 10. 4	効率的なノイズ対策手法紹介セミナー	浜松工業技術支援センター	24	浜松センター協議会 浜松EMC研究会
R5. 11. 14	SOLIDWORKSを活用した解析(構造・伝熱・機構)ワークショップ	浜松工業技術支援センター	16	—
R5. 11. 16	ANSYSを活用した熱流体解析ワークショップ	浜松工業技術支援センター	6	—
R5. 11. 24	はままつ超ハイテン研究会講演会2023	静岡大学工学部	94	はままつ超ハイテン研究会
R6. 1. 29	次世代のレーザー加工技術を学ぶ	浜松工業技術支援センター	47	浜松地域イノベーション推進機構
R6. 2. 16	トポロジー最適化ワークショップ	浜松工業技術支援センター	6	—
R6. 2. 21	光学設計ワークショップ	浜松工業技術支援センター	13	—
R6. 3. 6	SOLIDWORKS Simulationを用いたCAEワークショップ	浜松工業技術支援センター	4	—
R6. 3. 11	品質工学講演会	浜松工業技術支援センター	24	浜松品質工学研究会
R6. 3. 12	エンジニアとして知っておきたい耐光性・耐候性試験の基礎知識	浜松工業技術支援センター	60	—
実施回数 23回			参加者数 1,010人	

(カ) 講師活動

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの合計

	活動回数	参加者数
工業技術研究所	11	297
沼津工業技術支援センター	8	868
富士工業技術支援センター	14	351
浜松工業技術支援センター	19	614
合計	52	2,130

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	講習会等の名称		会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R5. 6. 27	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座		工業技術研究所	12	静岡県IoT導入推進コンソーシアム	岩崎 清斗
R5. 9. 7	総 合 食 品 学 講 座	食品の劣化と保存のポイント	工業技術研究所	29	(公財) 静岡県産業振興財団	長房 秀幸 松野 正幸
R5. 10. 3		試作加工C、D		9		大竹 正寿 松野 正幸 山本 佳奈恵 長房 秀幸 堀池 隼雄
R5. 10. 5		試作加工A、B		10		
R5. 10. 17		微生物試験		26		
R5. 10. 19		微生物試験		27		
R5. 10. 26		成果発表会	静岡県立大学	21		大竹 正寿 山本 佳奈恵 長房 秀幸 堀池 隼雄
R5. 8. 7	家具構造解析について		(株)白井産業	3	(株)白井産業	船井 孝
R5. 12. 14	静岡地域食材学B		静岡県立大学	72	静岡県立大学	長房 秀幸
R6. 3. 8	ChaOIフォーラムセミナー		ふじのくに茶の都ミュージアム	72	ChaOIフォーラム事務局	油上 保
R6. 3. 19	CNFの現状について		静岡教育会館	16	静岡県ユニバーサル・工芸研究会	田村 克浩
活動回数 11回				参加者数 297人		

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R5. 6. 13	第21回 産総研・産技連LS-BT合同研究発表会	産総研つくばセンター	487	産総研 産技連ライフサイエンス部会バイオテクノロジー分科会	袴田 雅俊
R5. 7. 11	第1回静岡県ガストロノミーツーリズム研究会	鈴木学園 中央調理製菓専門学校静岡校	130	県観光政策課	袴田 雅俊
R5. 8. 30	酒造研修	(Web)	51	沼津工業技術支援センター 静岡県酒造組合 静岡県杜氏研究会	鈴木 雅博
R5. 9. 20	(株)平喜展示会セミナー	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	80	(株)平喜	鈴木 雅博
R5. 10. 3	令和5年度清酒酵母・麹研究会講演会	北とぴあ第2研修室	55	清酒酵母・麹研究会	鈴木 雅博
R5. 10. 24	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座	沼津工業技術支援センター	9	静岡県IoT導入推進コンソーシアム	望月 建治
R5. 12. 8	静岡県バイオテクノロジー研究会企業発表会・講演会	静岡県男女共同参画センターあざれあ	18	静岡県バイオテクノロジー研究会	袴田 雅俊
R6. 2. 21	第8回静岡クラフトビールの会	沼津市大手町商店街振興組合「さんさんホール」	38	静岡クラフトビールの会	鈴木 雅博
活動回数 8 回			参加者数 868 人		

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R5. 9. 8	機器分析の基礎セミナー	富士工業技術支援センター	35	富士センター協議会機械電子部会	増井 裕久
R5. 11. 17	中部イノベネット初心者向け技術セミナー	富士工業技術支援センター	8	中部イノベネット工業技術研究所	中島 大介
R6. 1. 19	CNF実践セミナー	富士工業技術支援センター	10	工業技術研究所 静岡大学 富士市	中島 大介
R6. 3. 15			13		田中 翔悟 山崎 利樹
R6. 3. 1	製紙産業イノベーション創出シンポジウム	ロゼシアンター	269	富士市	深沢 博之
R6. 3. 4	CNF技術者研修	富士工業技術支援センター	1	富士工業技術支援センター	山崎 利樹
R6. 3. 5			4		田中 翔悟
R6. 3. 13			2		田中 翔悟 中島 大介
R6. 3. 14			2		田中 翔悟
R6. 3. 18			1		田中 翔悟
R6. 3. 19			2		山崎 利樹
R6. 3. 21			1		田中 翔悟 中島 大介
R6. 3. 26			1		田中 翔悟
R6. 3. 27			2		田中 翔悟 中島 大介
活動回数 14 回			参加者数 351 人		

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称		会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R5. 5. 30	金属3Dプリンター活用セミナー		浜松工業技術支援センター	101	浜松工業技術支援センター	田光 伸也
R5. 7. 3	デジタルものづくりセミナー		浜松工業技術支援センター	88	浜松工業技術支援センター	長津 義之
R5. 7. 4				4		
R5. 7. 18	令和5年度製造中核人材育成講座		浜松工業技術支援センター	15	公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構	植松 俊明 木野 浩成
R5. 9. 1	デジタルものづくりセンターオープニングセレモニー及びキックオフセミナー		浜松工業技術支援センター	85	浜松工業技術支援センター	長津 義之
R5. 9. 8	第11回BIKE LOVE FORUM（バイク ラブ フォーラム）		えんてつホール	183	日本自動車工業会ほか	鈴木 敬明
R5. 9. 28	IoT大学連携講座（演習）		浜松工業技術支援センター	12	（公財）静岡県産業振興財団	太田 幸宏
R5. 10. 4	効率的な電磁ノイズ対策手法紹介セミナー		浜松工業技術支援センター	24	浜松工業技術支援センター	山田 浩文 上野 貴康
R5. 10. 24 ～26	レーザー中核人材育成講座実習		浜松工業技術支援センター	19	光産業創成大学院大学	渥美 博安 植田 浩安 中野 雅晴 志智 亘
R5. 11. 14 ～16	金属3Dプリンタ活用ワークショップ	（2）	浜松工業技術支援センター	12	浜松工業技術支援センター	木野 浩成 田光 伸也 植松 俊明 望月 智文
R6. 3. 13 ～14		（3）		10		
R5. 11. 27	浜松工業技術支援センター交流会		（株）ソミック石川古川工場	36	（株）ソミックマネージメントホールディングス	伊藤 芳典
R5. 11. 30	浜松EMC技術研究会 第63回研究会		浜松工業技術支援センター	12	浜松工業技術支援センター	山田 浩文
R6. 2. 21	光学設計ワークショップ		浜松工業技術支援センター	13	浜松工業技術支援センター	中野 雅晴 志智 亘
活動回数 19 回				参加者数 614 人		

(キ) 委員派遣

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの実績合計

	派遣回数	延べ派遣者数
工業技術研究所	4 2	4 2
沼津工業技術支援センター	2 8	3 6
富士工業技術支援センター	3 7	4 0
浜松工業技術支援センター	9 0	1 0 9
合計	1 9 7	2 2 7

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 5. 26	静岡情報産業協会通常総会	(Web)	静岡県情報産業協会	櫻川 智史
R5. 5. 29	試作品開発助成審査会	静岡県産業経済会館	(公財) 静岡県産業振興財団	櫻川 智史
R5. 6. 14	静岡市産学交流センター最終審査会	B-nest	静岡市産学交流センター	中山 洋
R5. 6. 20	静岡市産学交流センター運営委員会	B-nest	静岡市産学交流センター	中山 洋
R5. 6. 23	全国食品関係試験研究場所長会議	(Web)	全国食品関係試験研究場所長会	櫻川 智史
R5. 6. 23	JIS素案作成委員会	(Web)	(一社) 日本規格協会	柳原 亘
R5. 8. 28				
R5. 11. 14				
R6. 2. 22				
R5. 6. 27	ISO国内委員会	(Web)	(一社) 日本規格協会	柳原 亘
R5. 11. 14				
R6. 2. 22				
R5. 7. 7	公立鉦工業試験研究機関長協議会総会	三重県文化総合センター	公立鉦工業試験研究機関長協議会	櫻川 智史
R5. 7. 28	日本鑄造工学会 軽合金研究部会	いすゞ(株)藤沢工場	日本鑄造工学会	岩澤 秀
R6. 1. 13		日本鑄造工学会本部		
R6. 3. 15				
R5. 8. 10	経営革新計画承認審査会	県庁	静岡県	油上 保
R5. 10. 13				
R6. 3. 26				
R5. 8. 22	海洋技術開発促進事業費補助金審査委員会	(Web)	静岡県	油上 保
R6. 3. 22				
R5. 8. 29	医療機器等開発可能性調査審査会	(書面)	公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構	油上 保
R5. 10. 13				

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 9. 4	グッドデザインしずおか一次審査	(Web)	静岡県	櫻川 智史
R5. 9. 25	県科学技術振興表彰選考委員会	県庁	静岡県	櫻川 智史
R5. 9. 26	試作品開発助成審査会（3次募集）	静岡県産業経済会館	（公財）静岡県産業振興財団	櫻川 智史
R5. 9. 27	新成長産業戦略的育成事業助成審査会（3次募集）	静岡県産業経済会館	（公財）静岡県産業振興財団	櫻川 智史
R5. 10. 4	医療機器産業基盤強化推進事業助成金審査会（3次募集）	静岡県産業経済会館	（公財）静岡県産業振興財団	櫻川 智史
R5. 10. 11	県溶接コンクール委員会	ポリテクセンター静岡	静岡県溶接工業協同組合	鈴木 洋光
R6. 1. 17				
R6. 3. 13				
R5. 10. 16	グッドデザインしずおか二次審査	県庁	静岡県	櫻川 智史
R5. 11. 2	D 2 Cセミナー等開催業務委託企画提案審査委員会	(Web)	静岡県	油上 保
R5. 11. 16	焼津水産ブランド認定審査委員	焼津商工会議所会館	焼津商工会議所	大竹 正寿
R5. 11. 17	レーザ加工分科会運営委員会	(Web)	(一社)塑性加工学会レーザ加工分科会	鷺坂 芳弘
R6. 1. 25				
R6. 3. 22				
R6. 2. 9	フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションプロジェクト戦略検討委員会	クーポール会館	静岡県	櫻川 智史
R6. 2. 26	食品等開発助成事業及び化粧品等研究開発推進事業助成金審査委員会	静岡県産業経済会館	（公財）静岡県産業振興財団	油上 保
R6. 3. 5	新成長産業戦略的育成事業助成審査会	静岡県産業経済会館	（公財）静岡県産業振興財団	櫻川 智史
R6. 3. 6	令和6年度総合食品学講座推進委員会	静岡県産業経済会館	（公財）静岡県産業振興財団	大竹 正寿
R6. 3. 15	マリンオープンイノベーション事業化促進事業費補助金審査委員会	(Web)	静岡県	油上 保
派遣回数 42回			派遣人数（延べ） 42人	

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 4. 10	静岡県清酒鑑評会表彰式	もくせい会館	静岡県酒造組合 沼津工業技術支援 センター	鈴木 宏史 鈴木 雅博
R5. 4. 19 ～21	令和4酒造年度全国新酒鑑 評会（予審）の審査委員会	（独行）酒類総合研 究所	（独行）酒類総合研 究所	鈴木 雅博
R5. 5. 17	令和5年度富士山麓産業支 援ネットワーク会議	（公財）ふじのく に医療城下町推進 機構ファルマバレ ー センター	（公財）ふじのく に医療城下町推進 機構ファルマバレ ー センター	黒瀬 智英子
R5. 7. 19		(Web)		
R5. 9. 21				
R5. 11. 24				
R6. 1. 17				
R5. 6. 6	令和5年度静岡県東部地域 技術振興協議会 総会	(Web)	静岡県東部地域技 術振興協議会	鈴木 宏史
R5. 6. 12	令和5年度静岡化学工学懇 話会第1回役員会	日本軽金属(株)蒲原 製造所	静岡化学工学懇話 会	鬼久保 郁雄
R5. 7. 5	静岡県誉富士普及推進協議 会幹事会	静岡県酒造会館	静岡県誉富士普及 推進協議会	鈴木 宏史
R5. 9. 7	富士山麓アカデミック＆サイ エンスフェア2023実行委 員会	(Web)	富士山麓アカデミ ック＆サイエンス フェア2023実行委 員会	黒瀬 智英子
R5. 12. 12		沼津工業高等専門 学校		
R5. 9. 25	静岡県科学技術振興表彰選 考委員会	県庁	静岡県	鈴木 宏史
R5. 9. 26	ぬまづ技能マイスター認定 審査会委員	沼津商工会議所	沼津商工会議所	鈴木 宏史
R5. 9. 26	令和5年度名古屋国税局酒 類鑑評会品質評価会	名古屋第二国税総 合庁舎	名古屋国税局	鈴木 雅博
R5. 9. 27				杉本 芳邦
R5. 11. 9	静岡県創業者育成施設(沼 津インキュベーター)使用承認資格審査に係 る事前ヒアリング	沼津工業技術支援 センター	産業イノベーショ ン推進課	鬼久保 郁雄 黒瀬 智英子
R5. 11. 17	沼津工業高等専門学校運営 諮問会議	（独行）国立高等専 門学校機構沼津工 業高等専門学校	（独行）国立高等専 門学校機構沼津工 業高等専門学校	鈴木 宏史
R5. 11. 17	静岡大学全学教育科目 講義科目「発酵とサステナ ブルな地域社会」講義	静岡大学静岡キャ ンパス	静岡大学大学教育 センター	鈴木 雅博
R5. 11. 20	静岡県創業者育成施設入居 審査委員会	静岡県産業経済会 館	産業イノベーショ ン推進課	鈴木 宏史
R6. 2. 14	令和5年度ふじのくに先端 医療総合特区地域協議会	(Web)	ふじのくに先端医 療総合特区地域協 議会	鈴木 宏史
R6. 2. 15	令和5事務年度全国市販酒 類調査	名古屋第二国税総 合庁舎	名古屋国税局	鈴木 雅博

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 3. 6	令和6年静岡県杜氏研究会 新酒研究会	沼津工業技術支援 センター	静岡県杜氏研究会 沼津工業技術支援 センター	杉本 芳邦 鈴木 雅博
R6. 3. 12	令和6年愛知県新酒鑑評会	あいち産業科学技 術総合センター	愛知県酒造組合	鈴木 雅博
R6. 3. 13	令和6年静岡県清酒鑑評会	沼津工業技術支援 センター	静岡県酒造組合 沼津工業技術支援 センター	鈴木 宏史 杉本 芳邦 鈴木 雅博
R6. 3. 15	第54回三重県新酒品評会	三重県工業研究所	三重県酒造組合	鈴木 雅博
R6. 3. 18	静岡県創業者育成施設複数 室使用承認に係るヒアリン グ	沼津工業技術支援 センター	産業イノベーション 推進課	鬼久保 郁雄 黒瀬 智英子
R6. 3. 19	令和5酒造年度名古屋国税 局新酒の集約品質評価会	名古屋第二国税総 合庁舎	名古屋国税局	鈴木 雅博
派遣回数 28 回			派遣人数(延べ) 36 人	

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称		会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 4. 20	紙パルプ試験規格委員会		(Web)	紙パルプ技術協会	深沢 博之
R5. 6. 29			銀座区民館		
R5. 7. 27			(Web)		
R5. 9. 19					
R5. 12. 22			銀座区民館		
R6. 2. 14			(Web)		
R6. 3. 29			銀座区民館		
R5. 5. 17	(一社) 静岡県紙 パルプ技術協会理 事会	第 1 回	ホテルグランド富士	(一社) 静岡県紙 パルプ技術協会	飯野 修
R5. 8. 24		第 2 回			
R6. 3. 14		第 4 回			
R5. 5. 17	令和 5 年度 第 1 回富士山 麓産業支援ネットワーク会 議		ファルマバレーセン ター	(公財) ふじのく に医療城下町推進 機構ファルマバレー センター	鈴木 光彰
R5. 5. 31	ふじマイスター選定委員会		富士市役所	富士市産業交流部 商業労政課	飯野 修
R5. 6. 5	岳南地域地下水利用対策協 議会通常総会		ふじさんエコトピア	岳南地域地下水利用 対策協議会	飯野 修
R5. 6. 19	第 1 回富士ブランド推進会 議		富士商工会議所	富士商工会議所富士 ブランド推進会 議	飯野 修
R5. 6. 21 ～28	(一社) 静岡県紙 パルプ技術協会編 集委員会	第 1 回	(書面)	(一社) 静岡県紙 パルプ技術協会	飯野 修 深沢 博之
R5. 11. 1 ～15		第 2 回			
R6. 2. 1 ～15		第 3 回			
R5. 6. 29	異業種連携新サービス・新 事業創出支援補助金審査会		富士市役所	富士市産業交流部 産業政策課	飯野 修
R5. 7. 19	令和 5 年度 第 2 回富士山 麓産業支援ネットワーク会 議		(Web)	(公財) ふじのく に医療城下町推進 機構ファルマバレー センター	鈴木 光彰

年月日	委員会等の名称		会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 7. 26	繊維学会紙パルプ研究委員会		(Web)	繊維学会紙パルプ研究委員会	深沢 博之
R5. 8. 23	第 1 回 富士市立博物館協議会	第 1 回	富士山かぐや姫ミュージアム	富士山かぐや姫ミュージアム	飯野 修
R6. 2. 8		第 2 回			
R5. 9. 4 ～6	異業種連携新サービス・新事業創出支援補助金審査会		(書面)	富士市産業交流部産業政策課	飯野 修
R5. 9. 5	富士市CNF関連産業推進懇話会		富士市役所	富士市産業交流部産業政策課	飯野 修
R5. 9. 19	岳南地域地下水利用対策協議会 第 2 回委員・幹事合同会議		ふじさんエコトピア	岳南地域地下水利用対策協議会	飯野 修
R5. 9. 25	静岡県科学技術振興表彰選考委員会		県庁	静岡県経済産業部商工業局商工振興課	飯野 修
R5. 10. 2 ～5	異業種連携新サービス・新事業創出支援補助金審査会		(書面)	富士市産業交流部産業政策課	飯野 修
R5. 10. 19	富士市工業振興会議	第 1 回	富士市役所	富士市産業交流部産業政策課	飯野 修
R6. 3. 25		第 2 回			
R5. 10. 24	紙パルプ技術協会第230回木材科学委員会		(Web)	紙パルプ技術協会木材科学委員会	飯野 修
R5. 11. 20	機能紙研究会企画委員		JRホテルクレメント徳島	NPO法人機能紙研究会	深沢 博之
R5. 11. 20	機能紙研究会第 2 回理事会		J R ホテルクレメント徳島	特定非営利活動法人機能紙研究会	飯野 修
R5. 12. 6	ふじのくに C N F 研究開発センター CNFラボ（共同研究室）に入居して実施する共同研究 選定委員会		(Web)	富士工業技術支援センター	本多 正計
R5. 12. 12	紙パルプ技術協会第231回木材科学委員会		(Web)	紙パルプ技術協会木材科学委員会	飯野 修
R6. 1. 4 ～15	ふじのくに先端医療総合特区地域協議会		(書面)	ふじのくに先端医療総合特区地域協議会事務局	飯野 修
R6. 2. 14			(Web)		
R6. 1. 10	富士市 C N F ブランド認定審査会		富士市役所	富士市産業交流部産業政策課	飯野 修
派遣回数 3 7 回				派遣人数（延べ） 4 0 人	

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称		会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 4. 11	2023年度TMプラザはままつ総会		グランドホテル浜松	TMプラザはままつ	鈴木 敬明
R5. 4. 13	第1分科会		(Web)	中部エレクトロニクス振興会	山田 浩文
R5. 4. 15					
R5. 6. 8					
R5. 12. 12					
R5. 4. 14	新規EMC規格対応WG		(Web)	KEC関西電子工業振興センター	山田 浩文
R5. 6. 29 ～30			KEC関西電子工業振興センター		
R5. 8. 29 ～30			(Web)		
R5. 9. 4					
R5. 9. 21					
R5. 11. 20					
R5. 12. 20	大阪DKビル				
R5. 4. 18	HF P 定例会	第1回	浜松商工会議所	(一社)静岡県繊維協会	鈴木 敬明 鈴木 重好 大木 結以
R5. 5. 24		第2回			
R5. 6. 20		第3回			
R5. 7. 26		第4回			鈴木 重好 大木 結以
R5. 9. 13		第6回			
R5. 11. 14		第8回			
R6. 1. 23		第10回			
R6. 2. 22		第11回			
R5. 5. 10	CON-EX第1回実行委員会		浜松市福祉交流センター	(一社)強化プラスチック協会	鈴木 重好 針幸 達也
R5. 5. 11	繊維学会夏季セミナー第1回実行委員会		(Web)	(一社)繊維学会	鈴木 重好
R5. 5. 12	2023年度先端精密技術研究会幹事会		アクトシティ浜松コングレスセンター	先端精密技術研究会	長谷川 和宏
R5. 5. 16	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点令和5年度事業運営委員会 ワーキング会議		浜松医科大学	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	渥美 博安
R5. 5. 25			商工会議所		
R5. 7. 18			浜松医科大学		

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 9. 19	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点第2回事業運営委員会ワーキング会議	浜松医科大学	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	渥美 博安
R5. 11. 21				
R5. 12. 8		商工会議所		
R6. 1. 16		浜松医科大学		
R6. 3. 19				
R6. 3. 25				
R5. 5. 18	基礎級技能検定実技試験検定委員	(有)鷺津メッキ工業所	静岡県職業能力開発協会	田光 伸也
R5. 6. 26		(株)ミヤキ		
R5. 5. 19	車載機器計測精度分析WG	(Web)	KEC関西電子工業振興センター	山田 浩文
R5. 6. 21				
R5. 7. 25		沖エンジニアリング		
R5. 10. 18		UL Japan		
R5. 11. 17		パナソニックインダストリー		
R6. 1. 17 ～18		ADOX福岡		
R6. 2. 9		(Web)		
R6. 2. 28		大阪DKビル		
R5. 5. 24		繊維機械学会東海支部総会		
R5. 5. 26	めっき組合総会出席	オークラ アクトシティホテル浜松	浜松鍍金工業協同組合	鈴木 敬明
R5. 6. 4	J I S 溶接技能者評価試験立会員	浜松技術専門校	(一社) 日本溶接協会 中部地区溶接技術検定委員会	木野 浩成
R5. 9. 5				
R5. 12. 5				
R6. 3. 6				
R5. 6. 7	産学官金連携イノベーション推進事業第17期採択審査会	静岡大学イノベーション社会連携推進機構	フォトンバレーセンター	伊藤 芳典
R5. 6. 7	レーザー中核人材育成講座事業統括委員会	光産業創成大学院大学	光産業創成大学院大学	渥美 博安
R5. 12. 22				
R6. 3. 15				
R5. 6. 7	産業環境センター総会出席	ホテルクラウンパレス浜松	(一社) 静岡県産業環境センター	鈴木 敬明

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5.6.13	光・電子活用チャレンジ事業費補助金審査会	静岡大学イノベーション社会連携推進機構	(公財)浜松地域イノベーション推進機構フォトンバレーセンター	伊藤 芳典
R5.6.26	浜松地域新産業創出会議	グランドホテル浜松	浜松市商工会議所	鈴木 敬明 伊藤 芳典
R5.6.30	スタートアップ支援事業審査会	ホテルクラウンパレス浜松	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	伊藤 芳典
R5.6.30	金型技術研究会役員会及び総会	ホテルクラウンパレス浜松	静岡理工科大学金型技術研究会	吉岡 正行
R5.7.3	G0-Tech助成事業 第1回研究開発推進委員会	(Web)	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	中野 雅晴 志智 亘
R5.7.6	信州・浜松拠点交流会議 2023 in Hamamatsu	ホテルクラウンパレス浜松	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	鈴木 敬明 渥美 博安
R5.7.24	2023年度先端精密技術研究会総会	ホテルクラウンパレス浜松	先端精密技術研究会	長谷川 和宏
R5.7.24	産総研第1回地域連携ウェビナー	(Web)	産業技術総合研究所	伊藤 芳典
R5.7.28	都田アソシエイツ総会	ホテルクラウンパレス浜松	都田アソシエイツ	鈴木 敬明
R5.8.2	【A-SAP#18】採択審査会	静岡大学イノベーション社会連携推進機構	(公財)浜松地域イノベーション推進機構フォトンバレーセンター	鈴木 敬明
R5.8.28	繊維学会夏季セミナー第2回実行委員会	(Web)	(一社)繊維学会	鈴木 重好
R5.8.31	試作部品製作委託審査会	浜松商工会議所会館	(公財)浜松地域イノベーション推進機構次世代自動車センター	鈴木 敬明
R5.9.7	令和5年度第1回静岡県一産総研の連携に係る連絡会議	(Web)	国立研究開発法人産業技術研究所イノベーション推進本部地域連携部関東地域局	伊藤 芳典
R5.9.8	繊維学会夏季セミナー	ぎふメディアコスモス	(一社)繊維学会	鈴木 重好
R5.9.25	電磁環境委員会	日本品質保証機構名古屋事業所	中部エレクトロニクス振興会	山田 浩文
R5.9.26	CON-EX第2回実行委員会	浜松市福祉交流センター	(一社)強化プラスチック協会	鈴木 重好 針幸 達也
R5.9.27	KECシェアードミーティング	(Web)	KEC関西電子工業振興センター	山田 浩文

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 9. 27	随時級技能検定実技試験検定委員	ミヤキ	静岡県職業能力開発協会	田光 伸也
R5. 10. 13	EMC関西	グランフロント大阪	KEC関西電子工業振興センター	山田 浩文
R5. 10. 26 ～27	CON-EX2023	浜松市福祉交流センター	(一社)強化プラスチック協会	鈴木 重好 針幸 達也
R5. 10. 30	フォトンバレーセンター審査会	静岡大学イノベーション社会連携推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構フォトンバレーセンター	鈴木 敬明
R5. 11. 1	2023年度先端精密技術研究会講演会	ホテルクラウンパレス浜松	先端精密技術研究会	長谷川 和宏
R5. 12. 13	令和5年度第2回静岡県一産総研の連携に係る連絡会議	(Web)	国立研究開発法人産業技術研究所イノベーション推進本部地域連携部関東地域局	伊藤 芳典
R5. 12. 14	令和5年度第1回産総研シリーズウェビナー	(Web)	国立研究開発法人産業技術研究所イノベーション推進本部地域連携部関東地域局	伊藤 芳典
R5. 12. 20	HFP臨時会議	浜松商工会議所	(一社)静岡県繊維協会	鈴木 重好 大木 結以
R5. 12. 20	令和5年度第1回地域連携担当者会議	(Web)	国立研究開発法人産業技術研究所イノベーション推進本部地域連携部関東地域局	伊藤 芳典
R6. 1. 16	令和5年度医工連携スタートアップ支援事業報告会	アクトシティ浜松コングレスセンター	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	伊藤 芳典
R6. 2. 6 ～7	産総研第3回地域連携ウェビナー	(Web)	国立研究開発法人産業技術研究所イノベーション推進本部地域連携部関東地域局	伊藤 芳典
R6. 2. 13	【A-SAP第20期】採択審査会	静岡大学イノベーション社会連携推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構フォトンバレーセンター	鈴木 敬明

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 2. 13	産学官金連携イノベーション推進事業第18期採択審査会	静岡大学イノベーション社会連携推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構フotonバレーセンター	伊藤 芳典
R6. 3. 13	KECシェアードミーティング	(Web)	KEC関西電子工業振興センター	山田 浩文
R6. 3. 27	静岡県繊維協会臨時総会	浜松商工会議所	静岡県繊維協会	鈴木 敬明
派遣回数 90 回			派遣人数 (延べ)	109 人

(ク) 産業技術連携推進会議等への派遣

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの実績合計

	派遣回数	延べ派遣者数
工業技術研究所	3 2	1 0 2
沼津工業技術支援センター	6	7
富士工業技術支援センター	8	1 3
浜松工業技術支援センター	1 4	2 6
合計	6 0	1 4 8

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 4. 25	つながる工場テストベッド 事業報告会	(Web)	産総研	山下 清光 望月 紀寿 鈴木 悠介 横井 功毅 岩崎 清斗 松下 五樹
R5. 5. 23				
R5. 7. 25				
R5. 8. 22				
R5. 9. 26				
R5. 10. 25				
R5. 11. 28				
R6. 1. 30				
R6. 2. 27				
R6. 3. 26				
R5. 6. 14	第21回 産総研・産技連 LS -BT合同研究発表会	(Web)	産総研・産技連	堀池 隼雄
R5. 6. 15 ～16	産技連 ライフサイエンス 部会 第32回デザイン分科会	福島県ハイテクプラ ザ会津若松支援セン ター	産技連	長澤 正 及川 貴康
R5. 6. 16	産技連 東海北陸地域産技 連及び東海北陸地域部会合 同総会	ミッドランドホール (名古屋市中村区 ミ ッドランドスクエア オフィスタワー)	産技連 東海北陸 地域部会事務局	櫻川 智史
R5. 6. 23	全国食品関係試験研究所 長会役員会	(Web)	全国食品関係試験 研究場所長会	櫻川 智史 大竹 正寿
R5. 6. 26	産技連 企画調整分科会	(Web)	産技連	中山 洋

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 7. 11	AOIフォーラム令和5年度会員総会	(Web)	AOI機構	大竹 正寿
R5. 7. 24	産総研 第1回地域連携ウェビナー	(Web)	産総研	中山 洋
R5. 7. 31	関東甲信越地区食品醸造研究会	(Web)	群馬産業技術センター	山本 佳奈恵 堀池 隼雄
R5. 10. 12	産総研 第2回地域連携ウェビナー	(Web)	産総研	中山 洋
R5. 11. 16 ～17	第30回塗装工学分科会	(Web)	産技連製造プロセス部会	村松 重緒
R5. 11. 22	第17回TKFオープンフォーラム・第4回関東技術交流分科会	東京ビッグサイト 東京都立産業技術研究センター 食品技術センター	東京都立産業技術研究センター	油上 保 堀池 隼雄
R5. 11. 28	産技連 ナノテクノロジー・材料部会 第61回高分子分科会	(Web)	滋賀県工業技術総合センター	菅野 尚子 結城 茜 小泉 雄輔
R5. 11. 29	令和5年度産技連関東甲信越静岡地域産業技術連携推進会議 産業技術連携推進会議 関東甲信越静岡地域部会合同総会	神奈川県立産業技術総合研究所	産総研	櫻川 智史
R5. 11. 30 ～12. 1	産技連 ライフサイエンス部会 第32回デザイン分科会	静岡文化芸術大学	産技連	櫻川 智史 油上 保 長澤 正 易 強 及川 貴康 多々良 哲也
R5. 12. 14	産総研 シーズウェビナー	(Web)	産総研	中山 洋
R6. 1. 17	フード・フォーラム・つくば30周年記念講演会科会	(Web)	フード・フォーラム・つくば	堀池 隼雄
R6. 1. 22	産技連 推進会議総会	(Web)	産技連	櫻川 智史
R6. 2. 9	全国食品関係試験研究場所長会役員会	つくば国際会議場	全国食品関係試験研究場所長会	大竹 正寿
R6. 2. 13	産技連 環境・エネルギー部会・分科会研究会合同総会	(Web)	産技連環境・エネルギー部会	本間 信行
R6. 2. 20	産技連 関東技術交流分科会	(Web)	産技連	中山 洋
R6. 2. 29	フード・フォーラム・つくば フードファンクション分科会 講演会	(Web)	フード・フォーラム・つくば	山本 佳奈恵 堀池 隼雄
R6. 3. 26	IoT導入支援キットに関するWeb会議	(Web)	福岡県工業技術センター	山下 清光
派遣回数 32回			派遣人数（延べ）	102人

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 5. 17	静岡県-産総研連絡会議	(Web)	産総研	鬼久保 郁雄
R5. 9. 7				
R6. 2. 15				
R5. 6. 13 ～14	第21回 産総研・産技連LS-BT合同研究発表会	産総研つくばセンタ－	産総研 産技連 ライフサイエンス部会 バイオテクノロジー分科会	袴田 雅俊
R5. 9. 29	中部公設試験研究機関 機関長会・研究者表彰式	愛知県産業労働センター	中部科学技術センター	鈴木 宏史
R5. 11. 29	令和5年度産技連関東甲信越静岡地域産業技術連携推進会議 産業技術連携推進会議 関東甲信越静岡地域部会合同総会	神奈川県立産業技術総合研究所	産総研	鈴木 宏史
派遣回数 6 回			派遣人数(延べ) 7 人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 9. 7	第1回静岡県一産総研の連携に係る連絡会議	(Web)	産総研	本多 正計
R5. 9. 29	中部公設試験研究機関 機関長会・研究者表彰式	愛知県産業労働センター	(公財) 中部科学技術センター	飯野 修
R5. 11. 9	産技連 IoTものづくり分科会	(Web)	産技連IoTものづくり分科会	増井 裕久
R5. 11. 29	令和5年度産技連関東甲信越静岡地域産業技術連携推進会議 産業技術連携推進会議 関東甲信越静岡地域部会合同総会	神奈川県立産業技術総合研究所	産総研	飯野 修
R5. 12. 13	第2回静岡県一産総研の連携に係る連絡会議	(Web)	産総研	本多 正計
R5. 12. 14 ～15	産技連 ナノテクノロジー・材料部会紙・パルプ分科会	愛媛県産業技術研究所紙産業技術センター	産技連ナノテクノロジー・材料部会紙・パルプ分科会	飯野 修 深沢 博之 伊藤 彰

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 1. 22	産技連総会	(Web)	産技連	飯野 修
R6. 2. 15	第3回静岡県一産総研の連携に係る連絡会議	(Web)	産総研	本多 正計
派遣回数 8 回			派遣人数 (延べ) 13 人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R5. 6. 1	繊維分科会 東海地域連絡会総会	尾張繊維技術センター	産技連ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会	鈴木 重好 大木 結以
R5. 6. 8 ～9	繊維分科会 総会	桐生グランドホテル	産技連ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会	鈴木 重好
R5. 6. 16	産技連 東海北陸地域産技連及び東海北陸地域部会合同総会	ミッドランドホール (名古屋市中村区 ミッドランドスクエア オフィスタワー)	産技連 東海北陸地域部会事務局	鈴木 敬明
R5. 7. 14	CHC全体会議	(Web)	東海北陸地域部会 機械・金属分科会 炭素繊維高度利活用技術研究会	鈴木 重好
R5. 10. 5 ～6	繊維分科会 繊維技術研究会	アクトシティ浜松研 修交流センター外	ナノテクノロジー・材料部会 繊維 分科会	鈴木 重好 針幸 達也 宮原 鐘一 大木 結以
R5. 10. 6	繊維技術研究会	二橋染工(株) ヤマハ(株)	ナノテクノロジー・材料部会 繊維 分科会	鈴木 敬明
R5. 10. 9 ～10	第27回電磁環境分科会及び 第32回EMC研究会	じゅうろくプラザ	電磁環境分科会	山田 浩文
R5. 11. 21 ～22	産技連 製造プロセス部会 精密微細分科会 積層造形研究会	長野県工業技術総合 センター マルコメ(株)	長野県工業技術総合 センター	木野 浩成
R5. 11. 29	繊維分科会 東海地域連絡会	メール会議	ナノテクノロジー・材料部会 繊維 分科会	鈴木 重好
R6. 1. 12	第21回関東甲信越静岡EMC研究交流会	東葛テクノプラザ	関東甲信越静岡EMC研究交流会	山田 浩文

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 1. 18	繊維分科会 幹事会	メール会議	ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会	鈴木 重好
R6. 1. 22	第64回産業技術連携推進会議総会	(Web)	産総研	鈴木 敬明
R6. 2. 1	第8回地方公設試験研究機関金属AM技術担当者会議	東京都立産業技術研究センター	東京都立産業技術研究センター	田光 伸也 植松 俊明
R6. 2. 13	炭素繊維複合材料高度利活用技術研究会	(Web)	東海北陸地域部会 機械・金属分科会 炭素繊維高度利活用技術研究会	鈴木 重好
派遣回数 14 回			派遣人数 (延べ) 26 人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(ケ) 学会等への発表、外部発行誌等への投稿及び展示会への出展

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの実績合計

	学会等発表回数 (ポスター発表 含む)	学会誌等投稿	一般誌投稿	展示会出展
工業技術研究所	1 2	6	1	1 3
沼津工業技術支援センター	1	1	1	1 0
富士工業技術支援センター	7	0	0	6
浜松工業技術支援センター	6	1	2	3
合計	2 6	8	4	3 2

(a) 工業技術研究所の実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R5.6.10	ナノ秒レーザーピーンフォーミングの曲げ変形特性	2023年度塑性加工春季講演会	講演論文集	鷺坂 芳弘
	ナノ秒レーザーピーンフォーミングにおける水循環適用の効果 (第二報 レーザー光と同軸での水噴射の効果)			
R5.6.11	アルミニウム合金のレーザーピーニングによる圧縮残留応力の測定と数値解析			
R5.6.18 ～25	Changes in soymilk protein behavior with NaCl in freeze-thaw processing※	ICEF14 The 14th edition of International Congress on Engineering and Food	—	松野 正幸
R5.7.22	閉鎖性海域における海水温長期変動	日本沿岸域学会研究討論会(第35回)	—	山本 佳奈恵
R5.9.7 ～8	トイレ介助機器の開発に向けた高齢者施設調査※	日本人間工学会第64回大会	—	易 強

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
R5. 9. 15	A DEVELOPMENT OF MICRO-PRISM ARRAYS ACHIEVING IMAGE PROJECTION BY PRINCIPLE OF LIGHTING OPTICS: FEASIBILITY STUDY ON THE IMPLEMENTATION	30th Session of the CIE	The Proceedings of the 30th Session of the CIE, Ljubljana, Slovenia, September 15 - 23, 2023.	豊田 敏裕
R5. 11. 14	水産残渣抽出物の腸管IgA産生促進作用※	日本食品免疫学会第19回学術大会	—	長房 秀幸
R6. 3. 13 ～14	ヤチダモの組織構造と衝撃曲げ吸収エネルギー※	第74回日本木材学会大会	講演論文集	田村 克浩 前田 研司 菊池 圭祐
	有限要素法による棚板のたわみ試験の再現※			田村 克浩 船井 孝 長澤 正 及川 貴康
	テラヘルツ波によるCNF分散性の非破壊評価※			菅野 尚子 野澤 遼
R6. 3. 17	Unreal EngineとNode-REDの連携によるIoT機器設置検討支援 システムの提案	情報処理学会全国大会 第86回全国大会	—	岩崎 清斗
学会誌及び専門誌への投稿				
R5. 6. 20	分光イメージングによるアコヤガイの貝殻真珠層黄色度の評価	—	水産増殖	豊田 敏裕
R5. 8. 1	低周波風防への不織布の適用	—	騒音制御	木野 直樹
R5. 8	レーザ加工 2022年報告	—	ぷらすとす（塑性加工学会会報誌）	鷺坂 芳弘
R6. 1. 20	Effects of pH and salt concentration on freeze-thaw fractionation of soymilk protein	—	Journal of the Science of Food and Agriculture	松野 正幸
R6. 3. 1	文献紹介CIE P0144 照明光学系の原理により画像を投影するマイクロプリズムアレイの開発：実装の実現可能性に関する研究	—	照明学会誌	豊田 敏裕
R6. 3. 31	未利用バイオマスを原料とした活性炭開発と電極材料への展開	—	日本炭化学会誌	菊池 圭祐
実績なし				
一般誌等への投稿				

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
R5. 7	ポリプロピレン（PP）の形態が無水マレイン酸変性PPを含むCNF複合材料の物性に及ぼす影響	—	JETI（Japan Energy & Technology Interi- gence）	菅野 尚子 小泉 雄輔
展示会への出展				
R5. 6. 7 ～11	業務紹介、所有椅子展示※	シズオカ〔KAGU〕 メッセ2022	—	田村 克浩 村松 重緒 船井 孝 前田 研司
R5. 9. 28	“凍結融解技術”を用いた豆乳エマルジョン制御の可能性※	シズ & ニーズ ビジネスマッチング 研究発表会	—	松野 正幸
	水産物由来コラーゲンペプチド投与のマウス腸管IgA産生促進作用※			長房 秀幸
R5. 10. 2 ～3	PP/CNF複合材への高密着めっきの作製	ふじのくにセルロース国際展示会	—	田中 宏樹
	ポリ乳酸へのめっき技術の開発			
	セルロースナノファイバーを用いた自動車用湿式摩擦材の開発※			菅野 尚子
	セルロース繊維を強化材としたリサイクル樹脂複合材の開発※			菅野 尚子 小泉 雄輔 野澤 遼
R5. 11. 10 ～11	PP/CNF複合材への高密着めっきの作製	第13回産業振興フェア inいわた	—	田中 宏樹
	海洋由来微生物を活用した食品開発①-乳酸菌を用いた発酵ハバネロソースの開発-			大竹 正寿 堀池 隼雄
	介護・福祉用器具の改良支援事例の紹介※			田村 克浩
	静岡版メタン発酵技術の普及支援※			本間 信行
R5. 11. 16 ～18	セルロースナノファイバー強化樹脂の成形サンプル	PHOTON FAIR 2023	—	菅野 尚子
R5. 12. 1	介護・福祉用器具の改良支援事例の紹介※	Made in Mt.Fuji ふじのくに医療・介護福祉機器展	—	田村 克浩
合計件数 32 件		学会等発表 12 件・投稿等 7 件・展示会 13 件		

(b) 沼津工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R5.9.2	オオシマザクラ葉抽出物の 抗炎症活性と介護用品への 応用	第25回日本褥瘡学会学 術集会	—	袴田 雅俊
学会誌及び専門誌への投稿				
R5.9.29	Microbially produced fert ilizer provides endophyti c and epiphytic bacteria to hydroponic tomato root s by forming beneficial r hizosphere biofilm	—	Applied Microbiolog y and Biotechnology	高木 啓詞
一般誌への投稿				
R5.10	次世代インプラントの型鍛 造成形を可能にする設計支 援技術の開発	—	C S T Cニュース 24 7号	是永 宗祐
展示会への出展				
R5.11.10 ～11	海洋由来微生物を活用した 食品開発③ー生醗系清酒用 微生物の選抜ー※	第13回産業振興フェア inいわた	—	バイオ科 機械電子科
	海洋由来微生物を活用した 食品開発④ー選抜株による 生醗系酒母の試作ー※			
	熱間鍛造後の金属組織の予 測技術の開発※			
R5.11.30	オオシマザクラ葉抽出物の 抗炎症活性と介護用品への 応用※	第18回静岡県東部テク ノフォーラムin沼津高 専	—	鬼久保 郁雄 黒瀬 智英子
	海洋由来微生物を活用した 食品開発③ー生醗系清酒用 微生物の選抜ー※			
	海洋由来微生物を活用した 食品開発④ー選抜株による 生醗系酒母の試作ー※			
	熱間鍛造後の金属組織の予 測技術の開発※			
R5.12.1	オオシマザクラ葉抽出物の 抗炎症活性と介護用品への 応用※	Made in Mt.Fuji ふじ のくに医療・介護福祉 機器展-富士山麓産学官 金連携フォーラム2023-	—	鬼久保 郁雄 黒瀬 智英子 袴田 雅俊 是永 宗祐
	海洋由来微生物を活用した 食品開発④ー選抜株による 生醗系酒母の試作ー※			
	熱間鍛造後の金属組織の予 測技術の開発※			
合計件数 13 件		学会等発表 1 件・投稿等 2 件・展示会 10 件		

(c) 富士工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R5. 6. 14	加温処理による紙の低密度化に関する研究・パルプ懸濁液の加温処理により低密度化する紙の構造と物性※	2023年繊維学会年次大会	—	河部 千香 深沢 博之
R5. 6. 21	加温処理による紙の低密度化に関する研究・パルプ繊維懸濁液の加温処理により生じる紙の低密度化現象のメカニズム	第90回紙パルプ研究発表会	—	河部 千香 深沢 博之
R5. 8. 31	深層学習を利用した牛の分娩検知技術の開発	2023年電気学会電子・情報・システム部門大会	—	井出 達樹
年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
R5. 9. 28	プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂のリサイクル性の評価※	セルロース学会第30回年次大会	—	中島 大介
R5. 10. 12	マイクロ波減圧乾燥によるCNF濃縮技術の開発※	2023年度日本木材学会中部支部大会	—	山崎 利樹
R5. 11. 10	深層学習を用いた非拘束での牛分娩検知システムの開発※	計測自動制御学会 (SSI 2023)	—	井出 達樹
R5. 11. 28	ポリプロピレン/セルロースファイバー複合材のリサイクル特性評価※	プラスチック成形加工学会第31回秋季大会	—	田中 翔悟
学会誌及び専門誌への投稿				
実績なし				
一般誌への投稿				
実績なし				
展示会への出展				
R5. 7. 5 ～6	プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂のリサイクル性の評価 TEMPO酸化CNFに関する産業支援の取組について 次世代自動車軽量化のためのCNF複合材の開発	CNF展示会「セルロースナノファイバーの最前線2023」	—	山下 晶平 田中 翔悟 中島 大介 山崎 利樹

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
R5. 7. 18	プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂のリサイクル性の評価 TEMPO酸化CNFに関する産業支援の取組について 次世代自動車軽量化のためのCNF複合材の開発	ナノセルロースジャパン第4回総会	—	山下 晶平 田中 翔悟 中島 大介 山崎 利樹
R5. 7. 19	プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂のリサイクル性の評価 TEMPO酸化CNFに関する産業支援の取組について 次世代自動車軽量化のためのCNF複合材の開発	富士市CNFプラットフォームセミナー2023	—	山下 晶平 田中 翔悟 中島 大介 山崎 利樹
R5. 10. 2 ～3	プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂のリサイクル性の評価 TEMPO酸化CNFに関する産業支援の取組について マイクロ波減圧乾燥によるCNF濃縮技術の開発	ふじのくにセルロース循環経済国際展示会	—	山下 晶平 田中 翔悟 中島 大介 山崎 利樹
R5. 11. 10 ～11	プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂のリサイクル性の評価 TEMPO酸化CNFに関する産業支援の取組について マイクロ波減圧乾燥によるCNF濃縮技術の開発	第13回産業振興フェア inいわた	—	山下 晶平 山崎 利樹
R6. 1. 31 ～2. 2	TEMPO酸化CNFに関する産業支援の取組について	nano tech 2024	—	田中 翔悟 中島 大介 山崎 利樹
合計件数 13 件		学会等発表 7 件・投稿等 0 件・展示会 6 件		

(d) 浜松工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R5. 9. 3	地域の企業が解放した技術を基にしたCFRTP産官学合同の開発体制とその成果	日本機械学会2023年度年次大会	—	森田 達弥
R5. 9. 15	カラーイメージングによる表面粗さ推定に関する研究—粗さ推定精度の評価—	精密工学会秋季学術講演会	—	中野 雅晴
R5. 9. 18	A DEVELOPMENT OF MICRO-PRISM ARRAYS ACHIEVING IMAGE PROJECTION BY PRINCIPLE OF LIGHTING: OPTICAL DESIGN AND NUMERICAL ESTIMATION OF LIGHTING PERFORMANCE※	CIE2023 (The 30th quadrennial session of the CIE)	—	志智 亘
R5. 10. 26	細断したUDテープを用いたCFRTPのトランスファ成形	CON-EX2023	—	針幸 達也 大木 結以 鈴木 重好
R5. 12. 9	生分解性繊維PBS/PCLブレンド樹脂の紡糸条件検討と生分解性評価	第36回繊維学会東海支部若手繊維研究会	—	大木 結以
R6. 3. 5 ～6	めっきを利用した鉄-アルミニウムのスポット溶接技術の開発	表面技術協会第149回講演大会	—	田光 伸也
学会誌及び専門誌への投稿				
R5. 9. 17	A DEVELOPMENT OF MICRO-PRISM ARRAYS ACHIEVING IMAGE PROJECTION BY PRINCIPLE OF LIGHTING: OPTICAL DESIGN AND NUMERICAL ESTIMATION OF LIGHTING PERFORMANCE	—	Proceedings of the 30th Session of the CIE	志智 亘
一般誌への投稿				
R5. 7. 22	ポリプロピレン (PP) の形態が無水マレイン酸変性PPを含むCNF複合材料の物性に及ぼす影響	—	月刊 J E T I 8月号 (R5. 7. 22)	木野 浩成

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
R6. 1. 1	型技術	—	デジタルモノづくり と中小企業支援—静岡 岡県工業技術研究所 浜松工業技術支援セ ンター	伊藤 芳典
展示会への出展				
R5. 7. 14	新成長分野発展に貢献する 軽量高強度材料（CFRP）の 高効率成形技術の確立	MF-TOKYO2023第7回プレ ス・板金・フォーミン グ展	—	針幸 達也
R5. 11. 10 ～11	金属3Dプリンタ IoT推進ラボ 車載機器EMCテストサイト	第13回産業振興フェア inいわた	—	材料科 機械電子科
R5. 12. 1	「透明プラスチックのレー ザー溶着」	ふじのくに医療介護福 祉機器展	—	渥美 博安
合計件数 12 件		学会等発表 6 件・投稿等 3 件・展示会 3 件		

(2) 令和5年度研究成果一覧

ア 工業技術研究所

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び 普及等の状況	備 考
新成長戦略研究	人とコミュニケーションを図る次世代車載装置用樹脂レンズの開発	継続	共同	R3 ～ R5	路面に図形を描画することで歩行者等にメッセージを伝える“コミュニケーションライティングシステム”の実現に必要な、超小型で超微細な樹脂レンズの製品化技術を開発する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
新成長戦略研究	設備、モノ、ヒトの統合的データ分析による生産性の効率化	継続	単独	R4 ～ R6	生産機器の稼働状況の見える化へのIoT技術の導入の次のステップとして、ヒトやモノの動きを追加して生産計画への適用を図り、工場全体の効率化を図る。	県中部企業の設備の温度情報を収集するシステムを拡張した。また、県東部企業のモノ（塗料缶）の在庫管理をRFIDでできるようにした。さらに、4社についてカメラを用いたヒト作業情報の収集をできるようにした。	モデル工場として具体的事例を実現するほか、静岡県IoT推進ラボでの稼働展示を実施する。	
新成長戦略研究 (チャレンジ枠)	乳酸菌発酵による食品の感覚応答の増強・減弱	新規	単独	R5	糖質オフや減塩製品などの市場が拡大する一方、味の薄さなどから、味覚などの感覚を含めた満足度を高める技術の開発が求められている。乳酸菌による食品の発酵からこの課題にアプローチする。	乳酸菌を用いて、唐辛子の一種であるハバネロを発酵することで、辛味の受容体（TRPV1）応答が減弱することを見出し、そのメカニズムの一部を明らかにした。	成果を県内外に発信することで、満足度を高めた食品開発の振興につなげる。	
県単独研究 (競争的資金による研究) 科研費 (基盤研究)	豆乳タンパク質の新たな視点による挙動解析と濃縮技術開発	継続	単独	R3 ～ R5	植物性タンパク質源として注目されている豆乳は、加熱濃縮により凝集・固化しやすい問題点がある。このメカニズムを「液-液槽分離」の視点で解析することで、豆乳タンパク質が凝集しにくい濃縮技術を開発する。	豆乳の凍結融解実験結果の一部を国際学会(ICEF14)で発表した。非加熱豆乳にアミノ酸を添加して濃縮し、加熱豆乳と比較して豆乳タンパク質の凝集が抑えられ、結果として粘度上昇の抑制効果を発見した。	豆乳の凍結融解実験結果について、海外誌(JSFA)に投稿し、受理された。	静岡県立大学

県単独研究	半溶融成形法の高度化技術開発	継続	単独	R4 ～ R6	半溶融成形法の高度化技術において、実用化に向けた摩擦攪拌接合（FSW）継手の開発及び薄肉製品開発を目的として流動性を向上させるための合金開発及びマルチプロセス化を目的とした矩形・異形素材の開発を行う。	高強度合金を用いた半溶融成形材の摩擦攪拌接合継手の疲労強度は、従来材に比べて高い強度特性を有することがわかった。流動性を高めた高Si合金および矩形スラブの半溶融成形材料の製造の可能性を追求できた。	本開発技術を用いた応用技術開発及び製品開発技術について県内企業と共同開発を行い、県内ものづくり技術の発展に寄与する。	
県単独研究 （競争的資金 による研究） 科研費 （若手研究）	高結晶コーヒーカす活性炭への白金埋入による高耐久性燃料電池触媒の開発	新規	単独	R5 ～ R7	固体高分子形燃料電池は次世代エネルギー源として普及が期待されているが、電極触媒の耐久性向上が課題である。本研究では、活性炭のメソ細孔への白金埋入みと触媒を用いた黒鉛結晶化により、耐久性向上を目指す。	コーヒーカすの炭素化において、黒鉛化を促す元素としてNiが適していることを明らかにした。また、Ni含有コーヒーカす炭の水蒸気触媒により作製される活性炭の細孔構造を評価した。	黒鉛化と水蒸気触媒を複合化させた際の結晶性と細孔構造を評価し、白金担体として最適な炭素作製条件を確立する。	
県単独研究	加工材における変形挙動再現の検討	新規	単独	R5 ～ R6	本研究では製品開発の基礎技術として、家具製造に利用される木材（加工材）の材料特性評価や構造解析から、強度予測や挙動シミュレーションによる試作レス化について検討する。	箱物家具のCAD データに、試験片から導出した木材のヤング率を適用して実試験を再現する静的な構造解析の実施及びクリープ試験のための実データ取得実験を実施した。	工業技術研究所において、生活製品のCAE技術による試作レスや、製品の高付加価値化に繋がる技術相談に対応できるようにする。	
県単独研究	音声認識技術を用いた自動車室内音環境の評価に関する研究	新規	単独	R5 ～ R7	モーター騒音等による自動車室内の音環境の大きな変化で静粛性に寄与する自動車内装は重要になっている。そこで、車室内における自動車内装の評価指標を近年利用が盛んな音声認識技術を活用して数値化する。	既存のAI技術を活用した音声認識を用いて、研究用に公開されている雑音のない英語音声データを2,620個評価した。雑音がないければ、単語誤り率2.5%で認識出来ることを確認した。	現在、遮音や吸音により評価している自動車内装部品の音響性能について、本研究の成果を活用することで、車室内での音声認識性能という視点による性能評価ができるようになる。	
一般共同研究	資源循環型システムを志向した樹脂複合材のテラヘルツ波による非破壊検査手法の開発	継続	共同	R4 ～ R5	THz波を利用し、樹脂複合材の繊維分散性等の特性やリサイクル材の品質を非破壊・非接触で検査する手法を開発する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械物性向上及び成形性の安定化	継続	共同	R4 ～ R6	従来のCNF複合樹脂では耐衝撃性が樹脂単体と比べ低下してしまう。このため、自動車用に多く使用されているオレフィン樹脂を対象に、CNFの改質等により耐衝撃性等の物性の向上を目指す。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社

一般共同研究	好気性グラニュールを利用した高濃度窒素排水処理装置の開発	新規	共同	R5 ～ R6	本研究では、先行研究で新たに発見した好気性グラニュールを利用することで、有機性炭素及び窒素の同時除去を可能としながら、高負荷排水にも対応したコンパクトな処理装置を開発する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業2社
一般共同研究	リサイクルパルプ繊維を活用した塗り壁材の開発	新規	共同	R5	安価に製造が可能なバイオマス材料であるCMF（セルロースマイクロファイバー）を利用し、強度・特性、施工性等商品価値を有する塗り壁材料を開発する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業2社
一般共同研究 （競争的資金による研究） 新成長産業戦略的育成事業 業（財団）	フォーミング加工では不可能な形状加工の工法開発	新規	共同	R5	電気自動車では、ワイヤーハーネスからバスバーに置き換わる動きが進んでいる。しかし、現在、加工できるバスバーの形状に制約がある。そこで、複雑かつ多様な形状に対応できるバスバーの新たな加工法を確立する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	ポリプロピレン/セルロース繊維複合材射出成形品への高密着なめつき技術の開発	新規	共同	R5 ～ R6	射出成形条件やめつき条件等を最適化することで、PP/セルロース繊維複合材の実製品形状の射出成形品への高密着なめつきを作製することを目的とする。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業2社
一般共同研究	CMF複合樹脂を用いた発泡ブロー成形技術の開発	新規	共同	R5 ～ R6	発泡ブロー成形による自動車用部品の断熱性の向上が求められている。樹脂中にCMFを分散させ、発泡ブロー成形することで高い空隙率を実現し、断熱性向上を目指す。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業2社

一般共同研究 (競争的資金 による研究) A-STEP 産学共同 (育成型) (JST)	白金の超強度化技術 による大型モビリティ 搭載用固体高分子 形燃料電池電極触媒 の開発	新規	共同	R5 ～ R7	大型・商用モビリティへの燃料 電池搭載には、高作動域で高い 耐久性が求められる。本課題で は、「原料の段階から白金構造 を強度化する」という合成化学 的アプローチから固体高分子形 燃料電池用空気触媒を創製す る。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	静岡大学 あいち産業科学 技術総合センタ ー
受託研究 (競争的資金 による研究) 新成長産業戦 略的育成事業 業(財団)	エアコンの省エネ性 能を躍進する軽量高 剛性スクロールの量 産化システムの開発	継続	受託	R4 ～ R5	高圧鋳造技術により作製した粒 状ホウ酸アルミを含有するアル ミ基複合材料をベースとした軽 量高剛性のスクロールを世界規 模で生産するための量産化シス テムを開発する。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	持続可能な地産地消 型バイオガスエネル ギー供給技術の開発 と実証	新規	受託	R5	メタン発酵事業収益の飛躍的な 向上を目的として、高濃度脂質 廃棄物のメタン発酵技術の開発 とスケールアップ評価を実施す る。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	バイオマス由来活性 炭を白金担体とした 燃料電池触媒の性能 向上	新規	受託	R5	バイオマスを原料とした活性炭 を燃料電池電極として利用する ために、白金担持を行う。作製 される白金担持活性炭の燃料電 池性能(IV性能、抵抗値など) を評価する。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	特殊鋳鉄物の耐食 性に関する研究	新規	受託	R5	而摩耗性に優れるためプラント 配管等に使用されるクロム、ニ ッケル、銅を含有した特殊鋳鉄 を開発しており、本研究では、 開発合金の耐食性を明らかに し、実用化を目指す。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	微生物培養に適した 食品残渣培地の組成 検討	新規	受託	R5	駿河湾由来アスタキサンチン生 産酵母の培養効率向上を目的 として、酵母培養に適した食品 残渣培地の組成を検討する。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社

受託研究 (競争的資金 以外の研究)	魚残査の骨代謝改善 作用の研究	新規	受託	R5	静岡県は水産加工の盛んな県だが、加工残渣の処理が課題となっている。加工残渣から抽出物を作製し骨代謝に対する生理活性を明らかにすることで、新たな機能性食品としての活用を目指す。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	ラペソーと梅ヶ島食 べる乳酸発酵茶の比 較研究(好まれる嗜好 について)	新規	受託	R5	過年度開発された「食べる発酵茶」について、海外のラペソーとの差を明らかにするとともに、酵母菌の添加試験を行い「食べる発酵茶」の嗜好性向上と、一層の付加価値向上を図る。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	民間団体
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	親水性金めっき膜の 開発	新規	受託	R5	金めっきにCNFを共析することで生物学的安全性に問題がない成分を使用した親水性金めっき膜の検証を行うことを目的とする。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	半溶融成形法により 作製したヒートシン クの放熱性に関する 研究開発	新規	受託	R5	放熱性に優れたヒートシンクの開発を目的として、半溶融成形法で作製したアルミ合金製ヒートシンクの放熱性に及ぼす表面性状の影響を調べた。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	静岡県産薔薇花弁お よび未利用部位抽出 エキスの香り成分評 価	新規	受託	R5	静岡県産薔薇花弁を原料としたピュアローズ水の加工方法、加熱殺菌等による香り成分変化について評価する。また、未利用部位である薔薇の葉や茎から抽出されたエキスを含まれる香り成分の評価を行う。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	有機性汚泥の可溶 化・メタン発酵技術 によるバイオガスエ ネルギー変換 プロ セスの開発	新規	受託	R5	有機性汚泥を対象に、オゾンまたは熱アルカリ処理による可溶化技術と、メタン発酵処理を組み合わせることで、効率的なバイオガスエネルギー変換プロセスを開発する。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社

イ 沼津工業技術支援センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び 普及等の状況	備 考
一般共同研究	抗炎症効果のある伊豆特産サクラ葉抽出物の素材化と作用機序解析	継続	単独	R4 ～ R5	静岡県の化粧品出荷額は全国上位に位置している。産業支援の一環として炎症を抑制するスキンケア素材を開発すべく、伊豆特産のオオシマザクラ葉に着目し、抽出の検討と作用機序の解明を行う。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	
一般共同研究	本県独自の清酒用種麹の開発フローの構築	継続	共同	R3 ～ R5	県内の清酒業界からは、話題性や魅力のある商品の開発に向けて、県独自の清酒用種麹の開発が強く望まれていた。そこで、本研究では、本県の清酒造りに適した独自の清酒醸造用種麹の開発フローを構築する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	(独)酒類総合研究所 企業1社 民間団体
一般共同研究 (競争的資金による研究) 新成長産業戦略的 育成事業(財団)	二軸引張試験を活用した成形シミュレーションの予測精度向上	新規	共同	R5 ～ R6	板成形シミュレーションの形状予測精度向上には、材料モデル(材料の変形特性)が必要である。本研究の目的は、二軸引張試験を行い、その結果から適切な材料モデルを定め、形状予測精度を向上させることである。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金以外 の研究)	温間プレス成形後の材料評価	新規	受託	R5	温間プレス成形では、加工中の熱やひずみによって金属材料の状態が変化する可能性があるため、成形後の試料の材料状態を評価する。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金以外 の研究)	高温成形加工を活用した新たな加工方法の検討	新規	受託	R5	製品の製造コストを削減するため、高温成形加工による新たな加工方法実現の可能性を検討する。金属材料は熱によって状態(金属組織)が変化することから、最適な加熱条件を検討するための基礎データを蓄積する。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社

受託研究 (競争的資金以外 の研究)	自然界分離酵母 のビール醸造適 性評価	新規	受託	R5	近年、自然界試料から分離され た酵母を活用した酒類等が開発 されている。本研究では、委託 者が分離した酵母を活用したビ ールの開発を目的に、各分離株 のビール醸造適性の評価を行 う。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	民間団体
受託研究 (競争的資金以外 の研究)	熱海の未活用魚 からの酵母単離 とビール醸造適 性の評価	新規	受託	R5	熱海では千種類を超える魚が獲 れるが、多くが市場に出ない未 活用魚となる。未活用魚を知っ てもらい有効に消費する手法の 一つとして、未活用魚から酵母 を単離し、ビールを開発する。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金以外 の研究)	令和5年静岡県 清酒鑑評会にお ける出品酒の成 分分析とそれら 成分が官能評価 に与える影響に 関する調査研究	新規	受託	R5	本研究では、令和5年静岡県清 酒鑑評会出品酒の成分を機器分 析により明らかにし、それら成 分が官能評価にどのような影響 を与えているか明らかにする。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	民間団体
受託研究 (競争的資金以外 の研究)	ワサビの病害原 因微生物に有効 な抗菌物質を生 産する微生物の 探索	新規	受託	R5	静岡県はワサビの一大産地であ るが、水系に影響を及ぼすた め、化学系の農薬は散布が難し く、環境負荷の少ない微生物農 薬が求められている。本研究で は、新たな微生物農薬の開発に つながる有用な細菌を探索す る。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	静岡大学

ウ 富士工業技術支援センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	備 考
新成長戦略研究 (政策課題型)	サステナブルファッションに寄与する廃棄衣料を利用した製紙技術の開発	新規	単独	R5	近年、膨大な廃棄衣料が社会的課題となっており、その有効活用が求められている。本研究では廃棄衣料を原料とした紙を開発し、その紙を繊維業界などで活用することでサステナブルファッションに貢献する。	リサイクル紙の最適な抄紙方法を確立し、その方法で工場実機でのリサイクル紙の抄紙に成功した。リサイクル紙は市販品の印刷用紙を上回る物性であったため、通常の印刷用紙と同様に利用可能である。	本研究の成果品であるリサイクル紙は遠州の繊維事業者や繊維関連団体で名刺、ショップカードなどに活用されている。今後、広く情報発信することでサステナブルファッションの拡大に貢献する。	
県単独研究	加温処理による紙の低密度化に関する研究	継続	単独	R4 ～ R5	当センターの過去の研究からパルプを加温処理するだけで紙が低密度化する現象を発見した。紙が低密度化するメカニズムを解明し、製紙工場の工程に適用可能な技術開発を行い、紙製品のコストダウンを図る。	古紙に加温処理による紙の低密度化手法を適用すると、フレッシュパルプに比べて古紙パルプの低密度化度は低いものの、低密度化することがわかった。工場実機の古紙処理工程での検証でも低密度化が確認された。	県内2工場で実用化に向けたテストを計画しており、1社についてはテストの一部を実施した。低密度化のメカニズムについては学会誌などへの投稿に向けて準備をしている。	
県単独研究	AIを活用した古紙原料の半別に関する研究	新規	単独	R5 ～ R6	再生紙工場では、どのような古紙原料が不明なために損紙が発生するなどの課題がある。国や県で推進するDXの一環として、AIを活用して古紙原料を半別する技術を開発し、再生紙工場の効率化を目的とする。	綿やポリエステルなどの布片や、UVインキ印刷物とその他印刷物などのサンプルを収集し、光学測定データから機械学習にて、布片を繊維別、紙片をUVインキ印刷物とその他で半別することができた。	協力会社へ研究結果を報告し、協力会社を通じて普及に努めている。また、研究発表会にて口頭発表、業界誌へ投稿して普及を図っている。社会実装に向けて、ハイパースペクトルカメラへの適用も検討を進めている。	
県単独研究 クラウドファンディング型研究	植物由来の新素材「CNF」を使って環境にやさしい社会を実現させたい！	新規	単独	R5	触媒を用いた低エネルギーCNF製造手法であるTEMPO酸化法の普及を促進するため、TEMPO酸化法により作製されたCNFの性状を解糖方法毎に解糖し、得られたデータを広く一般に公開する。	TEMPO酸化法による解糖方法毎のエネルギー削減効果と、得られるCNFの性状を明らかにした。得られた成果は静岡県工業技術研究所HP内の特設ページで公開し、TEMPO酸化CNFの普及につなげる。	クラウドファンディングによる支援者に向けた発表会や研究所HP等により情報を公開し、CNFコーディネーターや関連するイベントでの周知を図ることで、関連企業に対し公開したデータを活用した製品開発を促す。	

一般共同研究 (競争的資金による研究) 科研費 (基礎研究)	深層学習を用いた画像解析による牛群中での子牛の疾病検知システムの開発	継続	共同	R3 ～ R5	近年の酪農では、個体ごとのつなぎ飼育方式から、舎内で放し飼育する群飼育方式に移行している。群飼育は個体管理が難しいことから、画像解析による疾病検知システムを開発し生産の効率化を図る。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	日本工業大学 畜産技術研究所
一般共同研究	マイクロ波減圧乾燥によるCNF濃縮技術の開発	継続	共同	R4 ～ R5	従来の乾燥方法でCNF分散液を濃縮するとセルロースが凝集してCNFの機能が失われてしまうことから、マイクロ波減圧乾燥を用いてエネルギー効率と良好なCNF分散性の再現を両立する濃縮技術を開発する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	リファイナーを用いた低コストCNF製造技術の開発	継続	共同	R4 ～ R6	新型リファイナーによる最適運転条件の確認とさらなる専用刃物の改良を行い、より低コストのCNF製造機器の開発を目指す。また、製紙工場への応用など用途開発を行い、リファイナーCNFの更なる普及をはかる。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械的物性向上及び成形性の安定化	継続	共同	R4 ～ R6	CNFとオレフィン系樹脂との複合材について、自動車部品への適用のためCNFの改質等により耐衝撃性等の物性向上を目指す。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社

エ 浜松工業技術支援センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	備 考
新成長戦略研究	人とコミュニケーションを図る次世代車載装置用樹脂レンズの開発	継続	単独	R3 ～ R5	路面に図形を投影することで歩行者にメッセージを伝える「コミュニケーションライティングシステム」の実現に必要な、超小型で超微細な樹脂レンズの製品化技術を構築する。	図形を投影する光学素子であるマイクロプリズムアレイの効率的な設計技術の構築と、量産に向けた製造技術を実証した。コンパクトでシンプルな装置を実現できるため装置サイズに制約がある用途への応用が期待できる。	開発した技術を活用して、次世代自動車用の車載光学製品や高品質・高付加価値な照明製品を創出する県内企業を支援する。	
新成長戦略研究	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	新規	単独	R5 ～ R7	製造現場では開発期間短縮や軽量化等の解決のため、その解決に金属3Dプリンタの使用が期待されているが、金属粉末材料が高額なことや物性・造形精度など様々な課題があり普及が進んでいない。	金属粉末材料が高額なことや物性・造形精度などの課題について、金属粉末材料の価格を下げ、物性や造形精度に関する情報を提供する。	企業が容易に金属3Dプリンタで造形を行える環境を作り出し、企業における開発期間短縮や軽量化等の問題解決を図る。	
県単独研究	EV向けコネクタ・スイッチ用めっきの特性向上に関する研究	継続	単独	R4 ～ R5	輸送機器のEV化への流れを受け需要増が予測されている、コネクタ・スイッチ部品用めっきに求められる性能を評価解析できる試験方法の構築と、それを用いて優れたSn、Agめっきを開発する。	目的である端子・接点用めっきの耐久性評価方法を確立した。その方法を用いて接点用Snめっきに光沢剤を添加した試料の耐久性を評価したところ、通常品と比較して摩耗による基材の露出が抑制された。	研究協力機関への技術普及を進め、企業における開発期間短縮や軽量化等の問題解決を図る。	
県単独研究	熱可塑性炭素繊維強化複合材料 (CFRIP) の循環利用	新規	単独	R5 ～ R6	軽量高強度材料である熱可塑性炭素繊維強化複合材料 (CFRIP) においてマテリアルリサイクルを目指し、CFRIPリサイクル材による成形性を評価する。	CFRIPを粉砕し、再加熱溶融成形した材料の物性を評価した。パージン材を70%混合することで、3回リサイクルしても必要強度を達成することが分かった。	協力機関である浜松地域FRP事業化研究会を通して会員企業等に技術普及を進める。	

一般共同研究	めっきを利用した鉄-アルミニウム接合技術の開発	継続	共同	R3 ～ R5	鉄-アルミニウムの接合は、地元企業からの要望が多い。輸送機器産業で利用されている通常のスポット溶接法では、金属間化合物が生成するため、十分な強度で接合することは難しい。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	IoT・機械学習を活用した長期稼働機器の遠隔診断技術の開発	継続	共同	R4 ～ R5	工場で稼働する機器の予知保全に活用することを目的として、後付けIoT化した機器から取得したデータを機械学習で解析することで機器の稼働状態を診断する技術を開発する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	簡易的な電波到来方向推定システムの開発	新規	共同	R5 ～ R6	電波到来方向推定機器として、2つの固定したアンテナで推定範囲を180°以下にして小規模・低コストでの作製を見込み、簡易的に推定するシステムを開発する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金以外の研究)	レーザーシート基布の水平リサイクルに向けたペレット化手法の確立	新規	受託	R5	レーザーシートの工程内端材であるポリエステル繊維の水平リサイクル実現に向け、物性低下をできるだけ抑えるペレット化手法を確立することを目的とする。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金以外の研究)	金型を用いた等温熱処理の金属組織の影響	新規	受託	R5	切削工具は、被削材の高強度化により、工具への負荷が増加傾向にあり、性能向上が求められている。金型を用いた等温熱処理の処理時間などが金属組織に及ぼす影響について調査する。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社

受託研究 (競争的資金 以外の研究)	EPMAによる機械構造 用炭素鋼の炭素含有 率の推定	新規	受託	R5	鉄鋼材由来の微小片が取引先 で異物として発見されることが あるが、鋼種の特定ができ ず問題になる。EPMA(電子線マ イクロアナライザー)の検量線 法を用いて微小金属片の炭素 含有率を推定できるようにす る。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	3Dプリンタを用いた レーザ溶接用シールド ガス導入機構の検 討	新規	受託	R5	レーザ溶接が部品接合に利用 され、溶接部の酸化を抑える ため不活性ガス(シールドガ ス)が溶接部に吹きつけられ ているが、不具合が発生す る。レーザ溶接用シールドガ ス導入機構を3Dプリンタを用 いて作製する。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	生分解性ブレンド樹 脂の紡糸条件の検討	新規	受託	R5	生分解性樹脂は汎用樹脂と比 べて強度や耐久性が劣るとい う課題がある。本研究では既 存の生分解性樹脂をブレン ド・成形することにより、環 境低負荷かつ十分な強度・耐 久性を有する生分解性釣糸の 開発を目的とする。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	不整脈治療器具向け 表面処理技術の開発	新規	受託	R5	金属3Dプリンタでポーラス形 状を造形すること、及びポー ラス形状の微細な内部構造ま でめっきすることは非常に難 しいため、本研究により、こ れらを克服し新製品開発に繋 げるための知見を獲得する。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社

静岡県工業技術研究所

〒421-1298 静岡市葵区牧ヶ谷2078

TEL 054-278-3028 FAX 054-278-3066

静岡県工業技術研究所

沼津工業技術支援センター

〒410-0022 沼津市大岡3981-1

TEL 055-925-1100 FAX 055-925-1108

静岡県工業技術研究所

富士工業技術支援センター

〒417-8550 富士市大淵2590-1

TEL 0545-35-5190 FAX 0545-35-5195

静岡県工業技術研究所

浜松工業技術支援センター

〒431-2103 浜松市浜名区新都田1-3-3

TEL 053-428-4151 FAX 053-428-4160

令和5年度 年報
静岡県工業技術研究所

令和7年1月発行

編集・発行

静岡県工業技術研究所

企画調整部

〒421-1298 静岡市葵区牧ヶ谷2078

TEL 054-278-3028

FAX 054-278-3066